

資料編

資料 1 アンケート調査の集計結果

(1) 道内社会福祉士を対象としたアンケート調査

I ご回答者様について

問 1 社会福祉士としての実務経験年数について、あてはまるものを1つ選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	1 年未満	19	6.9	7.0
2	1 年～3 年未満	24	8.8	8.8
3	3 年～5 年未満	22	8.0	8.1
4	5 年～10 年未満	58	21.2	21.3
5	10 年～15 年未満	50	18.2	18.4
6	15 年～20 年未満	55	20.1	20.2
7	20 年～30 年未満	39	14.2	14.3
8	30 年以上	5	1.8	1.8
	無回答	2	0.7	
	N (%ベース)	274	100	272

問 2 現在勤務している事業所等の所在地をお答えください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	札幌市	50	18.2	18.3
2	札幌圏（札幌市を除く）	20	7.3	7.3
3	その他の道内市町村	203	74.1	74.4
	無回答	1	0.4	
	N (%ベース)	274	100	273

問 3 現在従事している分野として、最もあてはまるものを1つ選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	高齢者分野	158	57.7	57.9
2	障がい分野	43	15.7	15.8
3	こども家庭分野	11	4.0	4.0
4	保健医療分野	0	0.0	0.0
5	地域分野	30	10.9	11.0
6	生活困窮者分野	12	4.4	4.4

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
7	福祉行政分野	12	4.4	4.4
8	その他	7	2.6	2.6
	無回答	1	0.4	
	N (%ベース)	274	100	273

問4 現在の勤務先の運営主体について、あてはまるものを1つ選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	社会福祉法人（社会福祉協議会を除く）	101	36.9	36.9
2	医療法人	23	8.4	8.4
3	地方公共団体	84	30.7	30.7
4	社会福祉協議会	53	19.3	19.3
5	その他	13	4.7	4.7
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	274	100	274

II 学生の実習受入れについて

問5 社会福祉士実習指導者講習会の受講状況について、あてはまるものを1つ選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	受講済み	92	33.6	33.7
2	未受講だが、今後受講する予定	28	10.2	10.3
3	未受講で今後も受講予定なし	153	55.8	56.0
	無回答	1	0.4	
	N (%ベース)	274	100	273

問6 社会福祉士養成課程のソーシャルワーク実習を受け入れるためには、厚生労働省が指定する実習指導者講習会の受講が要件であることを知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	知っている	204	74.5	74.5
2	知らなかった	70	25.5	25.5
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	274	100	274

問7 現在の勤務先で実習生を受け入れる意義について、あてはまるものを最大3つまで選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	人材確保	132	48.2	51.6
2	勤務先が所在する地域の活性化	47	17.2	18.4
3	自身のスーパービジョン能力の向上	68	24.8	26.6
4	自身のソーシャルワーク実践の振り返り	64	23.4	25.0
5	後継者の育成	147	53.6	57.4
6	養成校との関係構築	53	19.3	20.7
7	社会貢献（社会的責任）	82	29.9	32.0
8	あまり考えたことはない	39	14.2	15.2
9	その他	4	1.5	1.6
	無回答	18	6.6	
	N（%ベース）	274	100	256

問8 実習生を受け入れる際の負担について、あてはまるものを最大3つまで選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	実習プログラムの作成	198	72.3	75.0
2	担当教員や実習生との事前打合せ	50	18.2	18.9
3	担当業務と実習指導の両立	211	77.0	79.9
4	巡回指導の対応	13	4.7	4.9
5	勤務先（管理職）の理解	18	6.6	6.8
6	人員体制の確保	97	35.4	36.7
7	組織内の関係者との連絡・調整	42	15.3	15.9
8	組織外の関係者との連絡調整	26	9.5	9.8
9	その他	19	6.9	7.2
	無回答	10	3.6	
	N（%ベース）	274	100	264

問9 どのようなサポートがあれば、実習を受け入れやすくなると考えますか。
（受け入れ体制の整備等）

No.	内容
1	職場として受け入れできる体制づくり
2	職場（部署外、部署内）のサポート、指導者に対するサポート

No.	内容
3	所属機関の理解と協力、支援者（利用者）の理解促進に向けたサポート
4	実習を受け入れている所の実践状況を知りたい。実習生を受け入れることで人材確保につながる。成功例を上司に伝えられることができるデータ等があればと思う。
5	日誌のデジタル化、実習生の席等の環境面、業務のマンパワー不足（地域包括の業務量が多い）
6	実習指導者講習会を受ける余裕がない（自分のキャパ的にも）
7	実習生を受け入れるスーパーバイザーへの支援（社会福祉士協会等からの支援）
8	スーパーバイザーに対しての定期的な支援
9	小規模の町村組織では実習受入れに割く人員がいがないため、受入れが難しい。地方の福祉業界全体の人員確保が課題。
10	地区支部等での実習指導者へのサポート ・カリキュラム組み立ての助言・相談 ・スーパービジョンの際の助言 等 法人に講習受講済みの社会福祉士が複数いない場合に、近隣で相談できる体制等があると心強いと感じる。
11	現在も上司（社会福祉士）のサポートは受けられている。自分が行った指導のフィードバックを主なサポートとして感じている。 自分は上司がいるので良いとは思いますが、そういったサポートがない方（身近に、フィードバックをしてもらえる環境がない方）は大変だと思う。
12	実習指導をしたことはないのですが、実習中、スーパーバイザーの立場としてカバーしきれない部分の実習生のメンタルケアをしてもらえたら、指導者としては有り難く心強いかなと思います。
13	日常業務との調整
14	サポートというよりも、事業所の人材が居ないと業務が回らなくなってしまう。あくまでも業務優先なので。人員が不足していると実習生にきちんとした実習指導ができなくなってしまう。
15	スーパービジョンの重要性を周囲が知ること
16	職員数を増やし日常業務の軽減が図られること
17	自分のいる地域で社会福祉士の実習を何年も行っている人たちに相談ができるようなネットワークがあると心強いのでは
18	職場内に指導者が一人体制は辛いと思う。自身のSVをしてくれる上司がいることがベストであると思うが、実習受け入れ・指導を相談し合いながらできる仲間が職場内にいることで受け入れのしやすさにつながるのではないかと考える
19	実習前や期間中に実習指導やスーパーバイズの助言や相談に乗ってもらうなど

No.	内容
20	介護業務と実習生のカンファレンスなどの両立が難しい。人員確保が必要。
21	業務負担が多くなるので、係内の理解が必要。実習生や実習指導員の力量によっても負担が変わる。
22	実習前や実習中、実習後で相談したいことがあるときサポートしていただけるような体制がありましたら受入れやすくなると思います。
23	実習指導者講習会受講料の負担軽減、実習指導者講習会受講するため日常業務の軽減

(プログラム、マニュアル等)

No.	内容
1	実習を受け入れた場合、社会福祉士として対応するものが1人であるため、プログラム作成等を支援していただくと受け入れやすくなると思う。
2	プログラムの作成や評価票などの事務負担が大きいものでなければ、より受入れしやすいと思う。 受け入れ期間として、数週間ではなく、1週間×複数回の方がスケジュールを調整しやすい。
3	大まかな実習のプログラムの見本があれば良い。
4	実習プログラムの参考例があるといいと思う
5	実習内容について、具体的なテーマに絞った内容に限定されていれば、業務と両立しながらの指導も可能となるかも知れない。福祉分野も幅広く社会福祉士の実習内容も多いと思うので、実習期間、回数の調整で1回の実習内容を絞ることができれば可能かもしれない。
6	実習生受け入れの際のプログラム例や対応施設の工夫点を発信⇒どんなことをして良いのかイメージがつかないため
7	実際に実習生を受け入れ経験のある事業所の社会福祉士から話が聞けたらいいと思う。また、自事業所と類似する事業所から作成しなければならない書類等の情報提供があればなお良いと思う。
8	実習生受け入れに当たって具体的な事例等が数多くあると参考になる
9	実習指導計画を本人、学生側にある程度作成頂き、打ち合わせの中でこちらの事業等とすり合わせる形にできると負担軽減となります。
10	養成校側で実習記録をデータ化し共有できるようなシステムづくりがあればよい。
11	実習プログラムの内容に関する情報提供
12	指導マニュアルがあれば
13	担当職員への助言や教材の提供など

No.	内容
14	社協の事業運営体制と学生が作成した実習計画書に開きがみられることがあるので、それぞれがバラバラに計画を作成するのではなく、一定のすり合わせがあれば充実した内容になると思うので、そのような場の提供がいただければと思う。また、学生が一度立案した計画の見直し作業を実習先の実態に合わせて変更し担当教員の了解を得ることを実習に取り入れれば実践力が高まる研修になるのではないかと感じる。
15	類似実習先のプログラム提供
16	実習プログラム作成時の支援
17	具体的な実習プログラムの提案など
18	実習生に対する明確なカリキュラムなど手引き書などがあれば良いと思います。
19	実習プログラムの簡素化
20	受け入れる側も初めてだとどうしたらいいのかわからないため、事前に実習でどんなことを学びたいか等計画の提示があること、早い段階で打ち合わせができ実習受け入れまでに時間的余裕があること、勤務先でのサポート（複数対応等で担当者のみに負担がかからないような体制）など
21	市町村で受け入れる場合の標準カリキュラム（例）の提案や実習用資料の提示があれば、それに従って他部署への説明や調整がスムーズになると思われます。
22	プログラムの提示 評価の簡略化など
23	実習プログラムの基本類型を示してくださると負担が軽減できると思います。

（事前学習等）

No.	内容
1	日誌の書き方など基本的な指導・学習は学校側で行ってほしい。福祉サービス(実習分野の)類型なども事前学習として習得しておいてほしい。
2	当該生徒がどのような事を学びたいか明確に教えていただければ対応しやすいと思います。
3	実習生（学校）との連携や受け入れ先が就労施設(組織)としての認識を深め事前に交流がある事が必要。
4	実習先に実習生を任せるだけではなく、担当教員も定期的に実習生の取組に関わり、一緒に実習を有意義なものにしていく事が大切。学校の指導と実際の業務との違いをみんなで協議することが現場での活躍につながる。
5	以前の職場にて実習指導を行っていたが、普段業務と並行して行うので、指導職員のみでなく他職員も実習生と関わっていくこと、またソーシャルワーク実習への理解がある事が大切だと思う。また、実習生について、特に指導が必要な点や学びを深める内容などを学校と施設で共有しておくことが大事だと思う。

No.	内容
6	実習プログラムの枠組みについて、基礎領域、専門領域を問わず、実習指導者の判断でプログラムを構築している。ソーシャルワーク実習においては、学生の専攻など属性に関する情報が不足しているため、実習前の複数回の面談からプログラム作りを開始している。この点に関しては、大学側と実習指導者側で情報共有することで、早期に学生の特徴を知ることができると思う。結果として、実習受け入れが容易になるのではないだろうか。
7	事前学習をしっかり行ってきていただくことと、ボランティアなど学校外での社会経験をある程度積んできていただきたい。

(その他)

No.	内容
1	受け入れにあたって必要な事務作業のサポート
2	書類が簡素化されると良い
3	レポート作成用の PC 貸与
4	報酬の向上

問 10 実習生の受入れに関する以下の項目について、あなた個人としての考えにあてはまるものをそれぞれ 1 つ選んでください。「1～4」の番号に 1 つに○をつけてください。

問 10-1 実習生積極的に受入れたい

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	とても思う	65	23.7	23.8
2	やや思う	104	38.0	38.1
3	あまり思わない	90	32.8	33.0
4	まったく思わない	14	5.1	5.1
	無回答	1	0.4	
	N (%ベース)	274	100	273

問 10-2 実習生受入れたいが、余裕はない

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	とても思う	99	36.1	36.1
2	やや思う	116	42.3	42.3
3	あまり思わない	44	16.1	16.1
4	まったく思わない	15	5.5	5.5
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	274	100	274

問 10-3 実習生受入りたいが、学生の指導ができるか心配

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	とても思う	88	32.1	32.1
2	やや思う	102	37.2	37.2
3	あまり思わない	65	23.7	23.7
4	まったく思わない	19	6.9	6.9
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	274	100	274

問 10-4 実習生受入りたいが、周りの支援をもらえるか心配

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	とても思う	40	14.6	14.7
2	やや思う	92	33.6	33.7
3	あまり思わない	110	40.1	40.3
4	まったく思わない	31	11.3	11.4
	無回答	1	0.4	
	N (%ベース)	274	100	273

問 10-5 勤務先のことや町のことを説明できるか心配

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	とても思う	18	6.6	6.6
2	やや思う	46	16.8	16.8
3	あまり思わない	144	52.6	52.6
4	まったく思わない	66	24.1	24.1
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	274	100	274

問 10-6 自分の勤務先や町に PR できることや学びに値することがない

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	とても思う	4	1.5	1.5
2	やや思う	25	9.1	9.1
3	あまり思わない	142	51.8	51.8
4	まったく思わない	103	37.6	37.6
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	274	100	274

問 10-7 自分の勤務先をPR しようとは思わない

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	とても思う	4	1.5	1.5
2	やや思う	22	8.0	8.0
3	あまり思わない	136	49.6	49.6
4	まったく思わない	112	40.9	40.9
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	274	100	274

Ⅲ 実証参加について

問 11 今の勤務先で、過去5年間に相談援助実習（旧カリキュラム）またはソーシャルワーク実習（新カリキュラム）の受け入れ実績について、あてはまるものを1つ選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ある	80	29.2	29.3
2	ない	193	70.4	70.7
	無回答	1	0.4	
	N (%ベース)	274	100	273

問 12 実習プログラムの準備について、あてはまるものを1つ選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	所属組織において、予め実習プログラムを作成していた	32	40.0	40.0
2	養成校から提供されたプログラムを活用した	8	10.0	10.0
3	養成校や実習生からの提出書類を確認後、所属組織において実習プログラムを作成した	34	42.5	42.5
4	その他	6	7.5	7.5
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	80	100	80

問 13 勤務先における人材確保の現状や課題について、あてはまるものをすべて選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	人材の確保ができている	47	24.4	28.0
2	人材が足りないが、経営等の問題で募集はしていない	34	17.6	20.2

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
3	人材を募集しているが、申込が来ない	68	35.2	40.5
4	人材を確保する手法がわからない。PR する場が少ない	12	6.2	7.1
5	人材の確保に向けた取組をいろいろしているが、人材確保に繋がっていない	41	21.2	24.4
6	その他	14	7.3	8.3
	無回答	25	13.0	
	N (%ベース)	193	100	168

問 14 道内地方部における社会福祉士実習の受入れについて、あてはまるものをすべて選んでください。

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	勤務先の体制が整ったら受入れを検討したい	64	23.4	33.9
2	具体的に必要な準備等について把握した後に検討したい	83	30.3	43.9
3	他施設等での実習についての見学したい	30	10.9	15.9
4	学生を送り出してくれる養成校の情報を知りたい	24	8.8	12.7
5	必要性を感じない	26	9.5	13.8
6	その他	26	9.5	13.8
	無回答	85	31.0	
	N (%ベース)	274	100	189

問 16 そのほか、学生の地方部におけるソーシャルワークの実習やインターンシップについて、意見・要望等がありましたら、ご記入願います。

(道内地方部における実習受入れに対する意見、提案)

No.	内容
1	地方部では、市内で実習先が完結しないので、振興局レベルで管内の市町村にまたがる実習プログラムを策定するのが望ましい。
2	慣れない環境でソーシャルワークや利用者の理解を深めるために、受け入れ先の指導者や職員の理解や協力が不可欠だと思う。学校から離れての実習だと学生も精神的に不安な面もあるかと思うので、その部分でも周囲が協力することが大切なのではと感じる。

No.	内容
3	道内地方部以外の実習先は、社会福祉士の人数も限られ、業務も年々多忙になっているため、なかなか実習の受け入れが難しくなっているのが現状だと思う。ただ、社会福祉士の後見者の育成も、現社会福祉の役割でもあると思う。実習生が実習の際に行いたいテーマや学びたい内容と実習先がマッチするとよりよい実習になると思う。そのため、実習生を送りだす養成校、養成校の先生方にも道内地方部以外の実習先の状況を知っていただきたいと思う。また、道内地方部以外の実習先となると、宿泊等の費用が学生や学生の家族には負担となると思う。そのため、道内地方部以外でも実習がしやすい環境を整えることも大切だと思う。
4	地方部におけるソーシャルワーク実習を活性化させるには、実習受入れ担当者が学べる機会、受け入れをしやすい体制作りを積極的に進めないと、一部の職員にだけ負荷がかかってしまうと思う。
5	I C Tを活用するなどすれば遠方地の実習の可能性が広がると考えます。映像コンテンツを作成したり、実習指導者がネットワークを築いて、Z o o mで講義をいただくなどできれば可能性が広がると思います。
6	ソーシャルワーカーに関わらず、僻地では受け入れる側の人員等体制のほか、実習生にとっても移動手段や宿泊施設の確保等が難しいなどの課題があります。ソフト面、ハード面を整えなければ実習生の受け入れは難しい現状があります。
7	地方部に実習に来る際、学生は実家もしくは宿泊先を確保し、そこから実習に通う必要があります。宿泊先(ビジネスホテルなど)を利用するためにはお金がかかってしまいます。宿泊費の助成が学校側等からあると、地方部への実習に行こうという気持ちが学生も持てるのではと思います。学校によって、宿泊費の助成あるところと、ないところがあるとおもいますが、どの大学も、宿泊費の助成が整備されてほしいです。
8	ある程度自分が学びたいことや就職先などの方針が見え出す前の1・2年生の段階でこの事業に参加することで、学生の意識に働きかけることができる取り組みであると思います。広域でナレッジを作り、まずは山麓に広げることができればと思っています。
9	都市部(札幌市)にある養成校からの依頼で実習指導者研修を修了しました。受講当時は実習指導者が釧路地方では少ないと言われておりましたが、約8年経過しておりますが、実習希望者はこれまでおりません。各地区にある社会福祉士会と連携して受入についてソーシャルワーク実習の協議等をしていくとよいと思われます。

No.	内容
10	過去に実習生を受け入れたことがあるが、実習期間が非常に長くプログラムの作成から振り返りまでフォローしていく必要があり業務とのバランスが取れない。事業所の管理者をしながらの受け入れは無理。受け入れに対する謝礼も安すぎる。社会貢献、育成の意味もあるのは理解するが、その気持ちだけでは受け入れできない。実習の仕組みが今の状況と大きく変化しない限りは、受け入れ先の確保はできないと思う。
11	村や町の単独では実習生を受入れるには負担が大きいため、近隣町村と合同で受入れる体制ができるようになれば、負担が軽くなるのと町村で実施している事業の違いを学ぶことができるのではないかと思います。

(地方部における実習の意義について)

No.	内容
1	地方公共団体においても、社会福祉士の配置が必要な部署が増えてきているため、人材育成・確保のため、実習の受け入れが必要になっていると考える。
2	実習が都市部以外でも地方部で行えたら、地方の社会福祉士の質が向上したり、就職の選択肢が地方に広がる可能性があったり良い効果は与えられると思う。
3	地方では、都会には少ない地域のつながりを実感できる場が多いと思うので、是非、体験してみしてほしいと思う。
4	実習先の拡大は必要と考えます。受け入れは必須にしないと次の世代に繋がらないと思います。
5	地方でのソーシャルワークは、人口が少ないこともあり、顔の見える関係で支援が行われることが長所かと思っています。 また、色々な利用者さんや保護者の方々、関係者や地域住民の方々とつながることで、自分の暮らしが豊かになっている実感があります。地方でソーシャルワークをする面白さを学生さんたちに伝える機会があると嬉しいなと感じています。
6	実習時間も増えて学生も負担が大きい上に、現場も実習受け入れのハードルが高くなり、厳しいなとは感じています。自分も苦労した経験があるので、何らかの役に立てたら良いなと思っています。
7	前職で実習指導を経験し、人材育成のためにも指導者の知識技術にとっても良い機会だと感じました。現職でも徐々に職場の理解が得られれば受け入れにチャレンジしたいです。
8	自分が学生の時は地方公共団体での実習がなく、どのような仕事をしているのか実際のところはわかりませんでした。いざ仕事をしてみると、学生の時に勉強した内容が生かされており、学生の時に少し体験できていれば、なお良かったと思っています。

No.	内容
9	介護関連部署にいますが、ケアマネジャー、訪問介護員等に比較すると、現場の社会福祉士の不足感の訴えはまだ少なく感じます。今後、当事者への意思決定支援がますます重要になる中で、各方面での社会福祉士のニーズが高まるのではないかと思います。学生さんにとって、MSW、PSW、相談支援員、地域包括支援センターなど、多様で確実な就職先の選択肢が増え、社会的な地位がますますアップすることを願っています。
10	地方部における実習では、高齢化や過疎化が進んでいる地域が多いため、福祉ニーズが多様化していると想定され、それらを学ぶことができる利点があると思う。

(2) 道内養成校の学生を対象としたアンケート調査

I ご回答者様について、ご記入ください。

学校名

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	北海道教育大学	56	58.3	58.3
2	北海道医療大学	17	17.7	17.7
3	北星学園大学	9	9.4	9.4
4	専門学校北海道福祉・保育大学校	13	13.5	13.5
5	北翔大学	1	1.0	1.0
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	96	100	96

学年

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	1年生	43	44.8	44.8
2	2年生	42	43.8	43.8
3	3年生	7	7.3	7.3
4	4年生	4	4.2	4.2
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	96	100	96

性別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	男	26	27.1	28.3
2	女	66	68.8	71.7
	無回答	4	4.2	
	N (%ベース)	96	100	92

居住市町村

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	札幌市	29	30.2	31.2
2	函館市	52	54.2	55.9
3	その他	12	12.5	12.9
	無回答	3	3.1	
	N (%ベース)	96	100	93

Ⅱ 大学の選択について

問1 高校卒業時に住んでいた場所をお答えください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	道内	76	79.2	79.2
2	道外	20	20.8	20.8
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	96	100	96

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	札幌市	26	27.1	28.6
2	函館市	14	14.6	15.4
3	道内その他市町村	31	32.3	34.1
4	道外市町村	20	20.8	22.0
	無回答	5	5.2	
	N (%ベース)	96	100	91

問2 進路選択で重視した項目について、あてはまるものを最大3つまで選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	学べる内容・カリキュラム	63	65.6	65.6
2	取得できる資格・免許	60	62.5	62.5
3	入試の難易度	38	39.6	39.6
4	学費・奨学金	35	36.5	36.5
5	アクセス（立地）	29	30.2	30.2
6	国家試験の合格率	18	18.8	18.8
7	就職実績	17	17.7	17.7
8	高校教員からの情報	12	12.5	12.5
9	家族・知人からの情報	3	3.1	3.1
10	Web や SNS 上の書き込み	2	2.1	2.1
11	先輩からの情報	1	1.0	1.0
12	その他	2	2.1	2.1
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	96	100	96

問3 進路検討の時期に、道内地方部で滞在型の体験をしながらソーシャルワーク実習やインターンシップができるカリキュラムがあることがわかった場合、その大学を選択する

可能性について、あてはまるものを1つ選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	可能性が少し高まったと思う	37	38.5	38.5
2	可能性はあまり高まらなかったと思う	31	32.3	32.3
3	可能性が高まったと思う	17	17.7	17.7
4	可能性は高まらなかったと思う	11	11.5	11.5
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	96	100	96

Ⅲ 社会福祉の学びについて

問4 興味・関心がある分野について、あてはまるものを最大3つまで選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	地域分野	55	57.3	57.3
2	こども家庭分野	50	52.1	52.1
3	福祉行政分野	32	33.3	33.3
4	障がい分野	31	32.3	32.3
5	高齢者分野	24	25.0	25.0
6	保健医療分野	22	22.9	22.9
7	生活困窮分野	21	21.9	21.9
8	その他	4	4.2	4.2
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	96	100	96

問5 道内地方部でソーシャルワークの実習やインターンシップを行う機会があった場合、見学・体験したいことについて、あてはまるものを最大3つまで選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	地域住民との交流	61	63.5	63.5
2	自治体における福祉職の業務	43	44.8	44.8
3	福祉・医療などの社会資源やサービスの状況	41	42.7	42.7
4	買い物・交通・教育等の生活環境	39	40.6	40.6
5	福祉施設職員の業務	34	35.4	35.4
6	地域の産業・歴史・文化や自然環境	30	31.3	31.3
7	その他	0	0.0	0.0
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	96	100	96

問6 道内地方部でのソーシャルワーク実習やインターンシップに参加する条件について、あてはまるものを最大3つまで選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	交通費や滞在費等の支援がある	68	70.8	70.8
2	国家資格対応のソーシャルワーク実習の単位として認められる	64	66.7	66.7
3	大学の独自科目の単位として認められる	44	45.8	45.8
4	実施の時期について大学の授業との調整ができる	32	33.3	33.3
5	先進的な実践・取り組みについて学ぶことができる	19	19.8	19.8
6	卒業後の進路先として考えている地域である	9	9.4	9.4
7	巡回指導や帰校日指導をオンラインで対応可能である	8	8.3	8.3
8	実家がある地域である	8	8.3	8.3
9	教員からの紹介や推薦がある	6	6.3	6.3
10	その他	0	0.0	0.0
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	96	100	96

Ⅲ ソーシャルワーク実習について

問7 現在の大学におけるソーシャルワーク実習の経験について、あてはまるもの1つを選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	経験なし	75	78.1	78.1
2	経験あり	21	21.9	21.9
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	96	100	96

問8 ソーシャルワーク実習の前後における実習に対するイメージ・認識について、あてはまるもの1つを選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	変わった	16	76.2	76.2
2	変わらなかった	5	23.8	23.8
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	21	100	21

問9 実習の前後でイメージ・認識が変わったのはどのようなことですか。

No.	内容
1	地域住民の暮らしの形によって、各機関の業務内容や地域住民への働きかけ方に違いが見られた。 イメージや認識が変化するというより、視点が増えた。
2	利用者に対して明るいイメージがなかった。実習に行って、職員も利用者も明るく元気に活動していて驚いた。
3	できた・できなかったの結果だけではなく、過程や考察を評価してくれたこと
4	業務内容、楽しさ、忙しさ
5	ソーシャルワーカー全員がクライアント支援の考えで行動していること
6	分野横断が多いということ。地域全体で福祉分野における課題を解決しようとするところ。
7	障害分野の就労移行施設へ実習に行きました。 実習前は、スタッフと利用者は先生と生徒のような関係性だと思っていました。 しかし、実際はあくまでも対等な関係で、仕事仲間のような感じでした。
8	障がい者分野へ実習に行き、障害を持つクライアントと関わることで障害に対してのイメージや捉え方が変わった
9	患者さんやクライアントへの関わり方がより密接なこと
10	忙しさ
11	MSW は患者の話を聞いてあげることがメインだと思っていたが、実際はそれよりも看護師や医師との連携や、施設とのミーティングが多かった。
12	利用者が怖いイメージが、優しいに変わった
13	実際の現場の雰囲気や実態
14	地方における福祉の地域課題の存在と地域という繋がり意義を知ることができた
15	実習前は地域の過疎化やコミュニティの減少などの解決策はないと考えていたが、工夫さえすれば改善できるかもしれないということ。

問10 実習に対して事前にイメージ・認識していたことはどのようなことですか。

No.	内容
1	大変だけど意外とあっという間に終わること
2	自分から質問するような積極的な意識が重要視されること。
3	色々な方との関わりから調整していく
4	利用者に関わりながら業務について学ぶ
5	日誌などが大変

Ⅲ 就職について

問 11 卒業後の進路希望について、あてはまるもの 1 つを選んでください。

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	まだ決めていない	31	41.3	41.3
2	公務員（行政）	19	25.3	25.3
3	公務員（福祉職）	6	8.0	8.0
4	公務員（行政・福祉職以外）	5	6.7	6.7
5	医療機関	4	5.3	5.3
6	社会福祉施設	3	4.0	4.0
7	社会福祉協議会	2	2.7	2.7
8	福祉系の民間企業	1	1.3	1.3
9	福祉系以外の民間企業	1	1.3	1.3
10	NPO・NGO	1	1.3	1.3
11	進学（大学院）	1	1.3	1.3
12	起業	1	1.3	1.3
13	その他	0	0.0	0.0
	無回答	0	0.0	
	N（%ベース）	75	100	75

問 12 問 11 の回答理由について教えてください。

No.	内容
1	3 年次の実習を通して分野を選択する予定であるから
2	障害領域に興味があるため、障害者施設などで働きたいから。
3	医療ソーシャルワーカーとして福祉サービスを提供したいから
4	地域福祉に関心があるから
5	福祉職の公務員かソーシャルワーカーか迷っているから
6	どういうものをしたいのかまだ判断途中だから
7	精神的に学校に通うのがしんどく、今は将来を考えられない。
8	まだ進路先を絞るには早いから。
9	就職にも進学にも興味があるためこれからの学びで選択していきたい
10	医療ソーシャルワーカーを目指しているから
11	迷っているから
12	興味があるから
13	迷っています

No.	内容
14	大学に入る前はこの職業につきたいという明確な目標があったけど、大学に入ってからたくさんのことを学んで将来に対する視野が広がり、たくさんの分野に対して興味が出てきたから。
15	安定しているから
16	利用者さんのそばでより良い生活の実現のためのお手伝いがしたいと思ったから
17	働きたいと思ったところが民間のところだったから
18	街の人を身近に感じる
19	まだ決まってないからです
20	迷っているため
21	気になるから
22	収入面の安定性やより広い人へ福祉を届けることができる考えるため
23	興味あるから
24	実習に行ったことでやりたいことが増えた。
25	医療ソーシャルワーカーになりたいから。
26	考えが合うから
27	医療ソーシャルワーカーになりたいと、今の大学に進学しました。 精神病棟かそれ以外かはまだ考えていません。
28	実習を通して現場で働くことの大変さを実感したため、福祉施設で働くことに不安が生まれた
29	地元に戻って貢献したい
30	実習に行き興味を持った
31	msw になりたいから。
32	実習が楽しかったから
33	基礎を学べそうだから
34	興味があるから
35	やりたいことが定まってないため
36	資格取得は望んでいるが、それを用いた職に就きたいとはまだ考えていないため
37	安定した収入が見込めるから。
38	やりたいことがまだ定まってないため
39	地元の近くで安定した職に就きたいから
40	具体的なイメージがわからないから
41	どのような職種があるのか、まだ調べきれてない。
42	迷っている

No.	内容
43	社会福祉法人で働き、より地域住民と近い距離で関わりながら地域活性化をはかりたいと考えているため。
44	まだわからないことが多い
45	気になる職が多いため。
46	なりたい職業があるから
47	福祉や地域団体、公務員などの様々な職業に魅力を感じていて自分が1番やりたいものを絞りきれていないから。
48	社会福祉にしか興味がないのでこれを突き詰めていきたいため
49	興味ある分野を模索中
50	地域の人の生活と関わる仕事だと思うから
51	福祉の免許を持ちながら公務員をやるということは強みになると感じたから。
52	地元に戻り、働きたいと考えている。高齢者の多い町なので、働いた際に活かせるように現在学んでいる。
53	まだ悩み途中である
54	幼いころからの憧れだからです。
55	地域行政に携わることをしたい
56	安定した職に就きたいから。
57	福祉専門職として働くのは心身ともに辛そうだから。住民への直接のサポートより、行政の方針に福祉の考え方を組み込んで間接的にサポートしたい。
58	安定している
59	とくにない
60	かっこいいから
61	まだはっきりとした分野が決まってない
62	教員免許を取得したいから
63	社会福祉士の資格を取ろうと思っているから
64	行政の仕事に興味があるから
65	地域づくりに携わりたいから
66	地域づくりに興味関心があるため
67	安定を求める
68	社会福祉士の資格は取るつもりだが、何になりたいかは決まっていない。
69	安定しているから
70	やりたいことの方角性は決まっているが、それ以外は決まっていないから
71	元々決めていたが、今は色々とやりながら決めていくつもり。
72	まだ決めていない

No.	内容
73	まだ自分の進路選択ができるほど、視野が広がってもなく、職業に対する解像度も高くないから。
74	福祉関係の仕事だったらとまだ正確に決めてはないが、実際に困っている人の近くで手助けできる職業につきたい
75	法律系に興味があるから
76	将来公務員になりたいと高校のときから思っていたが、大学でソーシャルワーク論を学び始めてから公務員の中でも福祉関係に興味を持ち始めたから。
77	やりたい学問がまだ明確ではないから
78	安定しているから。
79	福祉系にしようとは思ったが、NPO、福祉施設、公務員等に興味があり、ひとつに定められていないから。
80	地域住民と密着して関われるから
81	大学で学んだ知識を活かせる
82	安定した職に就きたいから
83	民間か公務員か悩んでいる
84	地域づくりに携わっていききたいから。
85	安定した所得が得られるため。
86	自分の住みたい地域で、公職に就きながら地域振興に役立ちたいから。
87	福祉について学んでいるから
88	民間企業と公務員で決めかねているから
89	大学で社会福祉の資格を取ろうと思っているのでその知識や能力を活かした仕事をしたいと考えているため。
90	将来やりたいことが定まっていないから。
91	大学3年間の経験で決めようと思っているから
92	まだ明確に定まっている訳では無いが、教員になるためにこの函授大に来たため、教員を目指しています。
93	行政という面から地域を支えたいから
94	昔見たテレビ番組の特番で税関職員を紹介しており、かっこいいと言う印象が強く、憧れたから
95	休みと給料が安定している職種だから

問 13 卒業後の道内地方部での就職について、あてはまるもの 1 つを選んでください。

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	まだわからない	32	33.3	33.3
2	就職したい	16	16.7	16.7
3	どちらかといえば就職したい	19	19.8	19.8
4	どちらかといえば就職したくない	19	19.8	19.8
5	就職したくない	10	10.4	10.4
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	96	100	96

(問 13 で「1. 就職したい」または「2. どちらかといえば就職したい」と答えた方)

問 14 問 13 の回答の理由を教えてください。

No.	内容
1	インターンシップで数日間地域にいただけでも、地域住民の方々が親しげに接して くださった。人の温かみ、居心地の良さを感じた。
2	知識を活かしていきたい
3	通いやすいからです
4	安定した収入が欲しいから
5	就職場所にこだわりはないから。
6	親の近くで就職したいから。
7	実家の近くで親が安心だから
8	地元就職をしたいため
9	北海道内ではたらかたいから
10	実家があるから
11	地元に強い思い入れがあり、地元の地域活性化に貢献したいという思いがあるから。
12	実家から近いところがいいから
13	地元の近くで生活したいから
14	賑やかなところがあまり好きではないから。
15	地元に戻って就職したいと考えているため。
16	田舎の方が好きだからです。
17	食べ物が美味しいことと、好きな風景がたくさんあるから。
18	サークルや授業などを通して北海道の魅力に気付いたから。
19	行ける範囲だから
20	働きたいから
21	奨学金の関係

No.	内容
22	北海道で生活したいから
23	道外で就職するためのお金が無いから
24	自分が知らないだけでその地方独自の良さを知ることができるかもしれないから
25	地元がある場所だから
26	地元がどちらかというところだから
27	実際に住んでいる場所が田舎であること、現在までの大学で行った実習を経て、田舎である方が人と親身に関わったり、より細かいところや実践的なことを学び吸収できる機会があるのではないかなと思う。
28	都会が少し苦手だから
29	実家があるため
30	卒業後北海道内での就職も考えている
31	目につきやすい都市部だけでなく、地方部での経験を積むことで、自分のソーシャルワークへの知識や地域における問題の発見等について役立つかもしれないと考えたから。
32	それぞれの地方の特色を学校教育の面から自分自身も知りたいことと、北海道の魅力を感じているため。

（問 13 で「3. どちらかといえば就職したくない」、「4. 就職したくない」、「5. まだわからない」と答えた方）

問 14 問 13 の回答の理由を教えてください。

No.	内容
1	道外での就職を希望しているため
2	札幌にいる祖父母が心配だから
3	働く場所についてはまだ特に考えていないから
4	地域の特性によるから
5	もし、公務員をしたら自分の地元で働きたいから
6	地方の魅力的な点も自分には合わない点もどちらも実際に体感できたから
7	道外も視野に入れているから
8	就職した最初は実家から職場に通いたいから。
9	将来の目標が明確になってから判断したいから。自分の力を 1 番行かせるところに就職したいから。
10	地方部と都市部での福祉職ができることなどの違いをまだあまり把握していないから
11	実家方面なら働いてもいいと思える

No.	内容
12	都心部の方がいい
13	迷っているため
14	アクセスなど不便な面が目立つため
15	やりたいことの整理ができていないから。
16	札幌が地元で交通の便などが発達しているから。
17	今は札幌市内での就職を考えているが、地元(函館)での就職も視野に入れている。
18	どのような仕事に就くかで気持ちが変わると考えたから
19	地元に帰ろうと感じているから
20	まだイメージがわからない
21	札幌市で就職が決まっているから
22	良い出会いがあれば就職したい
23	地元に戻りたい気持ちも少なからずあるから。
24	どこの地域で働くか決めてないため
25	働きたい企業であれば、どこでも良い。
26	まだ進路で迷っている
27	実家が遠いのが心配
28	あまり転勤したくないと思っているから。
29	地元に戻りたいから
30	本州に帰るかもしれないから。
31	どの分野の福祉に興味があるのかまだ見つけられていないから。
32	地方よりも都市部に住みたいから
33	都市部のほうで就職したいから。
34	道外に出たいから
35	地元に帰りたい
36	今のところ行政志望だが大学に入学してからやりたいことと将来について何が最も良い選択なのか悩んでいるから
37	日本における地方と都市部の格差が激しい
38	関東圏で就職したいから
39	本当にどうしていきたいかも何も分からないから。
40	不便だから
41	都市部でも地方部でも自分にできることを確実にするまでは、まだわからないから。
42	さまざまな施設へのアクセスが悪いから
43	地元に戻りたいから。
44	地元に帰りたいと思うから。

No.	内容
45	ここで学んだことを地元に戻って還元したいから
46	日常生活において、地元よりも交通の面で不都合な点が多い。買い物先が限られており、娯楽施設が少なく、また積雪も考えるととてもじゃ無いが移り住みたいとは思えない
47	地元に戻って就職する可能性もあるから。
48	地元に戻りたい思いがあるから
49	発展した都市の方が住み心地が良いように感じるため。
50	生活が不便になるよりは都会で生活したい
51	地元が北海道ではないため就職は道外を考えているから
52	地元でも働きたいきもちもあるため
53	都市部と比べて就職先や給料が少ないイメージがあるから。
54	場所によって左右されるものではないとかんじているから
55	働く場所の希望に地方か都市が良いとか無いから
56	修飾地についてまだ具体的に決めていないから
57	とりあえず、札幌市役所に行きたいと考えているが、もっと他の役所について調べたいため

問 15 道内地方部を就職の選択肢として考えるための条件について、あてはまるものを最大3つ選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	やりたい仕事がある	44	72.1	72.1
2	丁寧な指導・サポートが受けられる	18	29.5	29.5
3	自分でも役に立てることがある	14	23.0	23.0
4	友人・親族が住んでいる	12	19.7	19.7
5	買い物など日常生活の利便性が確保されている	30	49.2	49.2
6	医療機関がある	11	18.0	18.0
7	子育ての環境が安心できる	6	9.8	9.8
8	実家などがある地域との間の移動のための公共交通機関がある	28	45.9	45.9
9	その他	3	4.9	4.9
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	61	100	61

問 16 大学におけるソーシャルワーク実習や道内地方部におけるインターンシップ・就職・暮らしについて、ご自由にご記載ください。

No.	内容
1	とても魅力的な取り組みだと思っているので来年も続けて欲しいです。
2	タイミングが合わずまだ行けてないのでぜひ参加したいと思っている
3	地方の特徴や空気感は調べてみるだけではなく実際に足を運んでみないとわからないので、参加して本当に良かったと思っています。また機会をいただけたら、是非参加させていただきたいです。
4	大変だった
5	地方でも、実家が近ければ、実家がある地域で暮らしたいと思う
6	実習に関する情報を早めに知りたい。
7	実習が楽しみです。
8	交通の便が悪い 車がないと生活が大変だと感じた。
9	まだよくわからない。北海道に住みたいけど、都心へのアクセスが悪いところには住みたくないという葛藤がある。
10	大学では授業で沢山ソーシャルワークについて学べるのでとても良いと思います。実習はまだ行けていないけれど、この大学なら実習もとても有意義に学べると思います
11	インターンシップがあるなら参加したい。
12	ソーシャルワーク実習の日程が大学の授業などと調整しやすいといいなと思います
13	雪道だと交通が麻痺してしまう可能性があるためインターンシップを行う場合には春休みや夏休み期間で行って欲しいです。
14	実習がどのようなものか正直分からないことが多いです。
15	夏休みに、厚沢部町へボランティア実習として農業体験に行きました。このような第一次産業のインターンシップや実習があればより多くの人が参加するのではないかと考えます。

(3) 道内養成校の教員を対象としたアンケート調査

I ご回答者様について

問2 担当している養成課程についてあてはまるものを選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	精神保健福祉士養成課程	4	57.1	57.1
2	社会福祉士養成課程	3	42.9	42.9
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	7	100	7

問4 養成校におけるソーシャルワーク実習指導（科目担当者）の経験年数について、あてはまるもの1つを選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	5年以上10年未満	2	28.6	28.6
2	10年以上15年未満	2	28.6	28.6
3	15年以上	2	28.6	28.6
4	5年未満	1	14.3	14.3
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	7	100	7

II ソーシャルワーク実習指導について

問5 学生が養成校から遠方の地域で実習を希望した場合、実習担当教員にとって負担になることについて、あてはまるものを最大3つまで選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	実習施設の新規開拓	4	57.1	57.1
2	実習施設の事前打ち合わせ（事前訪問含む）	4	57.1	57.1
3	実習中の巡回指導	4	57.1	57.1
4	実習中のリスク管理（トラブル対応含む）	3	42.9	42.9
5	実習施設との各種連絡・調整・コミュニケーション	1	14.3	14.3
6	実習中の帰校日指導	1	14.3	14.3
7	養成校内での事務処理	1	14.3	14.3
8	実習施設との実習プログラムの調整	0	0.0	0.0
9	その他	0	0.0	0.0
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	7	100	7

問6 コロナ収束後、実習施設が養成校から遠方であることを理由に、巡回指導または帰校日指導をオンラインで実施した経験について、あてはまるもの1つを選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	いずれもオンラインで実施したことはない	4	57.1	57.1
2	巡回指導のみオンラインで実施したことがある	2	28.6	28.6
3	巡回指導と帰校日指導の両方をオンラインで実施したことがある	1	14.3	14.3
4	帰校日指導のみオンラインで実施したことがある	0	0.0	0.0
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	7	100	7

問7 オンラインで指導を実施する場合の懸念事項について、あてはまるものを最大3つまでを選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	実習施設のインターネット環境の確保	3	42.9	42.9
2	実習生のインターネット環境の確保	4	57.1	57.1
3	書類等の共有における情報セキュリティの確保	1	14.3	14.3
4	養成校におけるオンライン指導に関する基本方針の整備	0	0.0	0.0
5	実習指導者との関係構築	2	28.6	28.6
6	実習生の情緒的なサポート	4	57.1	57.1
7	実習施設（実習指導者）のオンライン指導への理解や対応	3	42.9	42.9
8	実習担当教員のオンライン指導の力量	1	14.3	14.3
9	特になし	1	14.3	14.3
10	その他	0	0.0	0.0
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	7	100	7

問8 国の実習要件を満たすソーシャルワーク実習が道内地方部で実施されている場合、学生に地方部での実習を勧めたいと考えますか。あなた個人としての考えにあてはまるものを1つを選んでください。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	とても思う	2	28.6	28.6
2	やや思う	3	42.9	42.9

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
3	あまりそう思わない	2	28.6	28.6
4	そう思わない	0	0.0	0.0
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	7	100	7

Ⅲ 学生の道内地方部におけるインターンについて

問 9 本事業では、社会福祉士養成校の学生を対象に、道内地方部におけるインターンを実施しています。学生が地方部でソーシャルワークに関するインターンを行う場合、どのような内容が含まれることを期待しますか。(最大3つまで○をつけてください。)

No.	カテゴリー	件数	(全体)%	(除不)%
1	地方部における社会資源の実態の把握	5	71.4	71.4
2	多職種・他機関連携の現場見学や体験	1	14.3	14.3
3	地域の実情に応じたソーシャルワーク実践上の課題の発見	4	57.1	57.1
4	地域住民とのコミュニケーション	4	57.1	57.1
5	地域の生活環境の理解	4	57.1	57.1
6	地域の魅力の発見	3	42.9	42.9
7	その他	0	0.0	0.0
	無回答	0	0.0	
	N (%ベース)	7	100	7

問 10 学生の地方部におけるソーシャルワークの実習やインターンについて、意見・要望等がありましたら、ご記入願います。

No	内容
1	今後もこのような機会、場所が増えていくことを期待しています。
2	帰省先以外では、安価な宿泊先の確保や宿泊費の補助がないと、学生に勧めることは難しいです。

資料 2 アンケート調査票原本

北海道内の社会福祉士を対象とした 地方部でのソーシャルワーク実習に関するアンケート調査

本調査は、厚生労働省令和6年度老人保健健康増進等事業「北海道地方部の自治体における福祉・介護人材確保のための調査研究事業」の一環として、道内の社会福祉士を対象に、ソーシャルワーク実習の受入れの現状や課題を把握し、地方部での学生の受入れを促進するための対応策を検討するために実施するものです。

【回答にあたっての注意事項】

- ① この調査への回答は任意です（回答中および回答後でも調査協力を取り消すことが可能です）。
- ② 回答いただいたデータは厳重に扱い、研究終了後10年間保管した後、適切な方法で廃棄します。
- ③ 回答いただいたデータは、統計的に処理をした上で、本調査研究事業の報告書等で公表予定ですが、その場合でも個人が特定されることはありません。

ご多忙のところ大変恐縮ですが、ご協力のほどよろしくお願いします。

【インターネットによるご回答】

以下のQRコードまたはURLより、インターネットからのご回答も可能です。



https://docs.google.com/forms/d/1UxbJ7d_KqWWcUo8ba8uJ-mBkf-64IZy09Xj2NM35Q8g/edit

回答期限：令和6年9月6日（金）

お問い合わせ先

北海道内地方部の自治体における福祉・介護人材確保のための調査研究事業事務局

実施主体 株式会社北海道二十一世紀総合研究所

担当者 劉（りゅう）、廣瀬

TEL：011-231-3053（平日9:00～17:00）

Mail：liu@htri.co.jp

hirose@htri.co.jp

I ご回答者様について

問1 社会福祉士としての実務経験年数について、あてはまるものを1つ選んでください。

- | | | | |
|--------------|--------------|--------------|-------------|
| 1. 1年未満 | 2. 1年～3年未満 | 3. 3年～5年未満 | 4. 5年～10年未満 |
| 5. 10年～15年未満 | 6. 15年～20年未満 | 7. 20年～30年未満 | 8. 30年以上 |

※これまで所属した全ての法人等での合算年数でお答えください。

問2 現在勤務している事業所等の所在地をお答えください。

() 市・町・村

問3 現在従事している分野として、最もあてはまるものを1つ選んでください。

- | | | | |
|----------|------------|------------|-----------|
| 1. 高齢者分野 | 2. 障がい分野 | 3. こども家庭分野 | 4. 保健医療分野 |
| 5. 地域分野 | 6. 生活困窮者分野 | 7. 福祉行政分野 | 8. その他() |

問4 現在の勤務先の運営主体について、あてはまるものを1つ選んでください。

- | | | |
|-----------------------|-----------|-----------|
| 1. 社会福祉法人（社会福祉協議会を除く） | 2. 医療法人 | 3. 地方公共団体 |
| 4. 社会福祉協議会 | 5. その他() | |

II 学生の実習受入れについて

問5 社会福祉士実習指導者講習会の受講状況について、あてはまるものを1つ選んでください。

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 受講済み | 2. 未受講だが、今後受講する予定 |
| 3. 未受講で今後も受講予定なし | |

問6 社会福祉士養成課程のソーシャルワーク実習を受け入れるためには、厚生労働省が指定する実習指導者講習会の受講が要件であることを知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っている | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

問7 現在の勤務先で実習生を受け入れる意義について、あてはまるものを最大3つまで選んでください。

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 人材確保 | 2. 勤務先が所在する地域の活性化 |
| 3. 自身のスーパービジョン能力の向上 | 4. 自身のソーシャルワーク実践の振り返り |
| 5. 後継者の育成 | 6. 養成校との関係構築 |
| 7. 社会貢献（社会的責任） | 8. あまり考えたことはない |
| 9. その他() | |

問8 実習生を受け入れる際の負担について、あてはまるものを最大3つまで選んでください。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 実習プログラムの作成 | 2. 担当教員や実習生との事前打合せ |
| 3. 担当業務と実習指導の両立 | 4. 巡回指導の対応 |
| 5. 勤務先（管理職）の理解 | 6. 人員体制の確保 |
| 7. 組織内の関係者との連絡・調整 | 8. 組織外の関係者との連絡調整 |
| 9. その他() | |



【次の「1～4」を基準に選んでください】

1.積極的に受入れたい	1	2	3	4
2.受入れたいが、余裕はない	1	2	3	4
3.受入れたいが、学生の指導ができるか心配	1	2	3	4
4.受入れたいが、周りの支援をもらえるか心配	1	2	3	4
5.勤務先のことや町のことを説明できるか心配	1	2	3	4
6.自分の勤務先や町に PR できることや学びに値することがない	1	2	3	4
7.自分の勤務先を PR しようとは思わない	1	2	3	4

道内社会福祉士養成校の学生が実習を行う際の地域は、札幌市や養成校の近隣地域がほとんどです。本事業では、学生に道内地方部でのソーシャルワークを体験するインターンシップを実施し、今後の受入れ地域の拡大可能性を検討しています。

1. ある	⇒問 12 へ
2. ない	⇒問 13 へ

1. 所属組織において、予め実習プログラムを作成していた
2. 養成校から提供されたプログラムを活用した
3. 養成校や実習生からの提出書類を確認後、所属組織において実習プログラムを作成した
4. その他（ ）

* 道内地方部とは、札幌市・石狩市・江別市・北広島市・恵庭市・千歳市・小樽市・岩見沢市以外の地域を指します。

1. 人材の確保ができている
2. 人材が足りないが、経営等の問題で募集はしていない
3. 人材を募集しているが、申込が来ない
4. 人材を確保する手法がわからない。PR する場が少ない
5. 人材の確保に向けた取組をいろいろしているが、人材確保に繋がっていない
6. その他（

1. 勤務先の体制が整ったら受入れを検討したい
2. 具体的に必要な準備等について把握した後に検討したい
3. 他施設等での実習についての見学したい
4. 学生を送り出してくれる養成校の情報を知りたい
5. 必要性を感じない
6. その他（

ご所属	
ご回答者名	
E-mail	



118

北海道内の社会福祉士・精神保健福祉士養成校の学生を対象とした 地方部でのソーシャルワーク実習に関するアンケート調査

本調査は、厚生労働省令和6年度老人保健健康増進等事業「北海道内地方部の自治体における福祉・介護人材確保のための調査研究事業」（実施主体：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）の一環として、北海道内の社会福祉士・精神保健福祉士養成校の学生を対象に、ソーシャルワーク実習の認識について調査し、地方部における実習の実施にあたっての課題や対応策を検討するために実施するものです。

【回答にあたっての注意事項】

- ④ この調査への回答は任意です（回答中および回答後でも調査協力を取り消すことが可能です）。
- ⑤ 回答いただいたデータは厳重に扱い、研究終了後10年間保管した後、適切な方法で廃棄します。
- ⑥ 回答いただいたデータは、統計的に処理をした上で、本調査研究事業の報告書等で公表予定ですが、その場合でも個人が特定されることはありません。

ご多忙のところ大変恐縮ですが、ご協力のほどよろしくお願いします。

【ご回答方法】

以下のQRコードまたはURLより、インターネットからのご回答をお願いします。



https://docs.google.com/forms/d/1q4yLrTSkCIneth_1PSVs0YS9qCA4B0z0XMTYD3hSA8U/edit

回答期限：令和6年12月27日（金）

お問い合わせ先

北海道内地方部の自治体における福祉・介護人材確保のための調査研究事業 事務局

実施主体 株式会社北海道二十一世紀総合研究所

担当名 劉（りゅう）、廣瀬

TEL：011-231-3053（平日 9:00～17:00）

Mail：liu@htri.co.jp

hirose@htri.co.jp

I ご回答者様について、ご記入ください。

学校名	
学年	
性別（任意回答）	
居住地（市町村）	

II 大学の選択について

問1 高校卒業時に住んでいた場所をお答えください。

() 都・道・府・県
() 市・区・町・村

問2 進路選択で重視した項目について、あてはまるものを最大3つまで選んでください。

1. 学べる内容・カリキュラム	2. 取得できる資格・免許
3. アクセス（立地）	4. 就職実績
5. 国家試験の合格率	6. 学費・奨学金
7. 入試の難易度	8. 高校教員からの情報
9. 先輩からの情報	10. 家族・知人からの情報
11. Web や SNS 上の書き込み	12. その他 ()

問3 進路検討の時期に、道内地方部で滞在型の体験をしながらソーシャルワーク実習やインターンシップができるカリキュラムがあることがわかった場合、その大学を選択する可能性について、あてはまるものを1つ選んでください。

* 道内地方部とは、札幌市・石狩市・江別市・北広島市・恵庭市・千歳市・小樽市・岩見沢市 以外の地域を指します。以下同様です。

1. 可能性が高まったと思う。	2. 可能性が少し高まったと思う
3. 可能性はあまり高まらなかったと思う。	4. 可能性は高まらなかったと思う。

III 社会福祉の学びについて

問4 興味・関心がある分野について、あてはまるものを最大3つまで選んでください。

1. 高齢者分野	2. 障がい分野	3. こども家庭分野	4. 保健医療分野
5. 地域分野	6. 生活困窮分野	7. 福祉行政分野	8. その他 ()

問5 道内地方部でソーシャルワークの実習やインターンシップを行う機会があった場合、見学・体験したいことについて、あてはまるものを最大3つまで選んでください。

1. 自治体における福祉職の業務
2. 福祉施設職員の業務
3. 地域住民との交流
4. 福祉・医療などの社会資源やサービスの状況
5. 買い物・交通・教育等の生活環境
6. 地域の産業・歴史・文化や自然環境
7. その他 ()

(問13で「3. どちらかといえば就職したくない」、「4. 就職したくない」、「5. まだわからない」と答えた方に伺います)

問14 問13の回答の理由を教えてください

問15 道内地方部を就職の選択肢として考えるための条件について、あてはまるものを最大3つ選んでください。

1. やりたい仕事がある 2. 丁寧な指導・サポートが受けられる 3. 自分でも役に立てることがある 4. 友人・親族が住んでいる 5. 買い物など日常生活の利便性が確保されている 6. 医療機関がある 7. 子育ての環境が安心できる 8. 実家などがある地域との間の移動のための公共交通機関がある 9. その他 ()
--

問16 大学におけるソーシャルワーク実習や道内地方部におけるインターンシップ・就職・暮らしについて、ご自由にご記載ください。

アンケート調査は以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

北海道内の社会福祉士・精神保健福祉士養成校における 地方部でのソーシャルワーク実習の指導に関するアンケート調査

本調査は、厚生労働省令和6年度老人保健健康増進等事業「北海道内地方部の自治体における福祉・介護人材確保のための調査研究事業」（実施主体：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）の一環として、北海道内の社会福祉士・精神保健福祉士養成校の実習担当教員を対象に、地方部でのソーシャルワーク実習の実施にあたっての課題や認識を明らかにし、対応策を検討するために実施するものです。

【回答にあたっての注意事項】

- ⑦ この調査への回答は任意です。（回答中および回答後でも調査協力を取り消すことが可能です）
- ⑧ 回答いただいたデータは厳重に扱い、研究終了後10年間保管した後、適切な方法で廃棄します。
- ⑨ 回答いただいたデータは、統計的に処理をした上で、本調査研究事業の報告書等で公表予定ですが、その場合でも個人が特定されることはありません。

ご多忙のところ大変恐縮ですが、ご協力のほどよろしくお願いします。

【ご回答方法】

以下のQRコードまたはURLより、インターネットからのご回答をお願いします。



https://docs.google.com/forms/d/199_mgxNxVumAiPYkB8AdJuomCp7TvyEYnztzRib3Rrk/edit

回答期限：令和6年12月27日（金）

お問い合わせ先

北海道内地方部の自治体における福祉・介護人材確保のための調査研究事業事務局

実施主体 株式会社北海道二十一世紀総合研究所

担当名 劉（りゅう）、廣瀬

TEL：011-231-3053（平日9:00～17:00）

Mail：liu@htri.co.jp

hirose@htri.co.jp

I ご回答者様について ※実習科目の責任者あるいはコーディネートの役割を担っている方

問1 本事業について御案内をしても差し支えなければ、連絡先をご記入ください。

養成校名	
ご回答者名	
E-mail	

問2 担当している養成課程についてあてはまるものを選んでください。(複数可)

1. 社会福祉士養成課程	2. 精神保健福祉士養成課程
--------------	----------------

問3 養成校の所在地についてお答えください。

() 市・町

問4 養成校におけるソーシャルワーク実習指導(科目担当者)の経験年数について、あてはまるもの1つを選んでください。

1. 5年未満	2. 5年以上10年未満	3. 10年以上15年未満	4. 15年以上
---------	--------------	---------------	----------

II ソーシャルワーク実習指導について

問5 学生が養成校から遠方の地域で実習を希望した場合、実習担当教員にとって負担になることについて、あてはまるものを最大3つまでを選んでください。

1. 実習施設の新規開拓 2. 実習施設の事前打ち合わせ(事前訪問含む) 3. 実習施設との実習プログラムの調整 4. 実習施設との各種連絡・調整・コミュニケーション 5. 実習中の巡回指導 6. 実習中の帰校日指導 7. 実習中のリスク管理(トラブル対応含む) 8. 養成校内での事務処理 9. その他()

問6 コロナ収束後、実習施設が養成校から遠方であることを理由に、巡回指導または帰校日指導をオンラインで実施した経験について、あてはまるもの1つを選んでください。

1. 巡回指導と帰校日指導の両方をオンラインで実施したことがある 2. 巡回指導のみオンラインで実施したことがある 3. 帰校日指導のみオンラインで実施したことがある 4. いずれもオンラインで実施したことはない

問7 オンラインで指導を実施する場合の懸念事項について、あてはまるものを最大3つまで選んでください。

1. 実習施設のインターネット環境の確保
2. 実習生のインターネット環境の確保
3. 書類等の共有における情報セキュリティの確保
4. 養成校におけるオンライン指導に関する基本方針の整備
5. 実習指導者との関係構築
6. 実習生の情緒的なサポート
7. 実習施設（実習指導者）のオンライン指導への理解や対応
8. 実習担当教員のオンライン指導の力量（システムへの精通具合を含む）
9. 特になし
10. その他（ ）

問8 国の実習要件を満たすソーシャルワーク実習が道内地方部で実施されている場合、学生に地方部での実習を勧めたいと考えますか。あなた個人としての考えにあてはまるものを1つ選んでください。

1. とてもそう思う
2. ややそう思う
3. あまりそう思わない
4. そう思わない

Ⅲ 学生の道内地方部におけるインターンについて

問9 本事業では、社会福祉士養成校の学生を対象に、道内地方部におけるインターンを実施しています。

学生が地方部でソーシャルワークに関するインターンを行う場合、どのような内容が含まれることを期待しますか。（最大3つまで○をつけてください。）

* 道内地方部とは、札幌市・石狩市・江別市・北広島市・恵庭市・千歳市・小樽市・岩見沢市以外の地域を指します。以下同様です。

1. 地方部における社会資源の実態の把握
2. 多職種・他機関連携の現場見学や体験
3. 地域の実情に応じたソーシャルワーク実践上の課題の発見
4. 地域住民とのコミュニケーション
5. 地域の生活環境の理解
6. 地域の魅力の発見
7. その他（ ）

IV その他

問 10 学生の地方部におけるソーシャルワークの実習やインターンについて、意見・要望等がありましたら、ご記入願います。

アンケート調査は以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

資料3 北海道地方部におけるインターンシップ受け入れプログラム作成マニュアル

北海道地方部における
インターンシップ受け入れプログラム作成マニュアル

2025 年 3 月

(株) 北海道二十一世紀総合研究所

◆ はじめに ◆

本マニュアルは、厚生労働省令和5～6年度老人保健健康増進等事業「北海道内地方部の自治体における福祉・介護人材確保のための調査研究事業」の調査結果に基づいて作成されたものです。

過疎・高齢化が進行している北海道内の地方部の自治体では、慢性的な福祉・介護人材不足により、福祉サービスの安定的・持続的な提供が危がまれています。特に、若年層の福祉・介護人材の確保をめぐる社会問題ともいえるべき深刻な状況にあります。一方、近年では、若者の「ローカル」や「ソーシャル」志向が指摘されており、地方部における若者の移住・定住の事例も散見されますが、福祉・介護分野では都市部に人材が集中している状況です。

以上の実態を踏まえ、本調査研究では、北海道内の福祉系大学の大学生を対象とした地域滞在型のインターンシップや実習（以下、インターンシップ等）を通じて、北海道内地方部での若者の福祉・介護人材確保に取り組んできました。インターンシップ等を始める前は、「どうせ若者は都会志向だから地方部には興味を持たれない」、「実際にやっても効果はないだろう」と思う方も多いかもかもしれません。しかし、実際にインターンシップ等を実施してみると、予想以上に多くの気づきや効果が得られました。

例えば、インターンシップ等に参加した学生が「この町でなら暮らしていけそうだ（暮らしてみたい）」と感じる瞬間があったことが明らかになっています。そのきっかけは、世間によく知られた観光名所等の存在ではなく、その町にある日常（日々の暮らしという営み）の中に隠れています。学生たちは好奇心を持って地方部の町を訪れ、その魅力や可能性を見つけ出します。自治体や各種福祉施設等が「ここには何もない」と否定的な思考に囚われることなく、学生の視点を通じて新たな価値を見出すことができる可能性があります。

また、インターンシップ等を通じて若者が「将来はここで働き暮らしていけるかもしれない」という選択肢が増えることは、地方部にある自治体の未来にとって非常に大きな意味を持ちます。そのような若者が増えることで、福祉・介護人材不足への一助や地域活性化につながる可能性が高まります。

まずはチャレンジすること。それが地方部の自治体の存続と新しい可能性を切り開く第一歩です。本マニュアルは、北海道内にある福祉系大学の学生を対象としたインターンシップ等の受け入れを検討している北海道内の自治体や各種福祉施設等が、実際に活用できる実践的な内容を提供することを目的としています。本マニュアルをご活用いただき、地方部において若者の福祉・介護人材を受け入れる際の一助となりましたら幸いです。

目 次

第1部 受け入れにあたっての心構え.....	1
第2部 事前準備.....	3
1. 受け入れ担当者（実習指導者）について知る.....	3
2. 学生を知る	5
3. 受け入れ期間を決める	6
第3部 受け入れプログラムの作成方法.....	7
1. 自分たちの業務内容を整理する.....	7
2. プログラムの構成要素を確認する	8
3. 連携先を検討する.....	12
4. まちの特徴を活かした体験を組み込む.....	13
5. 養成校教員と連携する	14
第4部 インターンシップ受け入れプログラムの具体例.....	15
1. 行政主導型	15
2. 施設主導型	17
3. 町同士連携型.....	20
<参考> 国家資格対応のソーシャルワーク実習の概要.....	24
1. 実習施設・機関に必要な具体的準備・対応	24
2. 実習指導者の要件及び役割.....	25
3. ソーシャルワーク実習の「ねらい」と「教育に含むべき事項」	26

第1部 受け入れにあたっての心構え

心構え① チームで受け入れる体制を作る

インターンシップ等の受け入れは、学生を直接指導する担当者一人で全て対応するものではありません。組織内の各部署や関係者が協力・連携し、チームとして学生を迎え入れることで、受け入れ担当者の負担（感）を軽減のみならず、学生にとっても多様な学びの機会が生まれます。

また、実習指導者が一人で忙しくすべてを抱え込んでいる様子は学生にも伝わります。その結果、「この職場は大変そう…」と敬遠される可能性もあります。組織全体で受け入れることで、学生からみても「働きやすい職場」という印象につながります。（P7 と P12 を参照）

心構え② 普段の仕事・業務をそのまま見せる

「特別な準備が必要なのでは？」と思うかもしれませんが、その必要はありません。学生に普段の仕事・業務をそのまま見てもらい、体験してもらうことが、リアリティのある貴重で実践的な学びにつながります。インターンシップ等の期間中に「特別なイベント等がない日」があっても、学生にとっては貴重な学びの機会です。「何気ない日常業務」の中に支援やサービス提供に関する重要な要素が詰まっています。（P7 を参照）

心構え③ 国家資格等の保有者がいなくても受け入れはできる

「国家資格保有者等の福祉専門職がいないので受け入れは難しいのでは？」と思うかもしれませんが、そんなことはありません。まずは国家資格に対応した実習ではなくインターンシップから始めることで十分です。福祉の支援・サービス提供の現場では、利用者や住民等との関わりや職員同士のチームアプローチ（多機関・多職種連携）など、学生にとって学べるものがたくさんあります。「うちのまちならではの福祉の実践」を学生に体感してもらいましょう。（P3～P4 を参照）

心構え④ 地方部の福祉の特徴を伝える

「地方の福祉は都市より進んでいる」と驚く学生もいます。人口が小規模だからこそ実現できる柔軟な支援・サービス体制や、居住地域が広範にわたっているがゆえの特徴、福祉以外の業種や産業を含めたまさに「まちぐるみ」の多機関・多職種による支援が展開されている実際など、「地方部にあるまちならではの特徴」を学生に伝えましょう。

心構え⑤ わが町の日常・暮らしをみせる

町の歴史や文化・自然、住民との交流も学生にとっては貴重な経験であり学びの機会です。受け入れ側からすると「こんなことが面白いの？」と驚くような反応をする学生がいるかもしれません。「日常の何気ない風景」が、未来の福祉人材にとって新たな発見につながる可能性があります。(P15～P23 を参照)

心構え⑥ まちの魅力を伝える

地方部でのインターンシップ等は福祉に限定したプログラムとはかぎりません。むしろまちを散策したり基幹産業に関する体験など、福祉以外のプログラムも含めて受け入れることで、学生がまちについての理解が深まり、興味・関心を喚起することにつながります。(P13 を参照)

心構え⑦ 不安や心配があれば経験者に相談する

はじめてインターンシップ等を受け入れる場合、「学生の質問に答えられるか…」「このプログラムで本当に大丈夫か…」といった不安や心配もあるかもしれません。そのような時には、福祉系大学の教員やインターンシップ等を受け入れた経験がある他の自治体・各種福祉施設の担当者に相談してみましょう。また、私たちも皆さんを全力でサポートしますので、遠慮なくお問い合わせください。(P28 を参照)

心構え⑧ 短期間の受け入れから始める

はじめての受け入れから長期間のインターンシップ等となると、受け入れる自治体や各種福祉施設等、学生にとっても負担が大きくなります。無理のない範囲で、3 日程度の短期からスタートするのも一つの方法です。受け入れ期間の設定は柔軟に調整が可能です(P6 を参照)

第2部 事前準備

1. 受け入れ担当者（実習指導者）について知る

Q1 社会福祉士国家資格は持っていないが、学生の指導ができるか。

- ④ インターンシップの場合、社会福祉士国家資格を持っていなくても、学生の指導ができます。国家資格等の有無により組織内で分担内容を考えましょう。

☞（例えば、国家資格等の有無でこんな違いがあります）

【社会福祉士国家資格を持っている場合】

- ・ ソーシャルワーク等に関する専門的な知識やケース対応のスキルを持っているため、より高度な専門的見地から指導や利用者・家族等の支援や地域支援・地域づくりの実際・課題について教えることができます。また、様々な社会資源（法制度やインフォーマルな者を含む）の活用や開発等も含め、個別支援や地域支援について指導します。なお、社会福祉士・精神保健福祉士のカリキュラムに対応した実習を受け入れる場合には、国が定める実習指導者の要件を満たす者が必要となります。
（※国が定める実習指導者の要件は「第5部」を参照）

【社会福祉士国家資格を持っていない場合】

- ・ 国家資格を保有していない場合でも、地域福祉のフィールド等での日常業務や各種事業・活動等の内容、また、利用者・家族・住民・関係する施設機関の職員等の関係者等とのコミュニケーションの機会を用意するなど、支援現場の実際について学生に見せ指導することができます。地方部のインターンシップ等の場合には、まちの魅力等について伝えることも重要となるため、国家資格等の有無は受け入れの大きな障壁にはなりません。

Q2 受け入れ担当者（実習指導者）の役割って何？

- ④ 受け入れ担当者（実習指導者）の役割は、学生が社会福祉の支援が行われている現場で様々なことを体験・経験しながら、考え・悩みつつ、成長するサポートをすることです。学生にとって初めての実践現場での経験となるが多いため、受け入れ担当者（実習指導者）は学生が安心感をもって学ぶことができるよう対応しましょう。

☞（例えば、とりあえず次のことをしましょう）

①現場の知識を伝える

- ・ 学生が学校で学んだ社会福祉の価値・知識・技術が実践現場でどう活かされているかを教えます。

②学生のサポート役になる

- ・ 学生が迷ったときや、うまくできない時に適切なアドバイスやサポートを行います。また、必ずしも正解がない事柄については一緒に考える姿勢を意識します。

③まち（地域）について知るための素材を用意する

- ・ 特定の施設・機関内の業務のみならず、地域（住民）との関わり（方）も学生が体験しているような機会を設けます。

Q3 受れ入れ担当者（実習指導者）に必要なスキルって何？

- ④ 受れ入れ担当者（実習指導者）に求められる力は、実践現場やそこでの支援の実際・課題を学生に見せ伝える力と、学生を支えつつ教育的な関わりができる力です。

☞（例えば、こんなスキルが望ましいです）

①コミュニケーション力

- ・ 学生が分からないことや不安なことを質問したり相談しやすい雰囲気を作ることが大切になります。最初は学生が不安を感じることも多いため、できる限り丁寧に説明したり、質問も可能な範囲で時間を作り答えることを心掛けます。

②観察力とフィードバック

- ・ 学生の行動や学びの進捗を観察し、適切なフィードバックを行います。「何がうまくできたのか」「どこを改善すべきか」を学生に明確に伝えることで、学生の成長をサポートします。

③柔軟な対応力

- ・ 学生がミスをしたり、様々な理由で当初のプログラムが予定通りに進まないこともあります。その際には冷静に対応し、学生が自信をもって取り組むことができるようサポートしながら指導します。

④肯定的に意味づける力

- ・ 現場での戸惑いや失敗を「貴重な経験」として意味づけ、学生が自分の学びに前向きに向き合えるよう促します。否定ではなく可能性に目を向ける関わりが、挑戦する意欲を支えます。

2. 学生を知る

Q1 学生像はどんな感じ？

- ④ 学生は主に 1 年生から 3 年生が想定されます。学年ごとに社会福祉に関する学びの進捗やインターンシップ等の目的が異なります。また、学年だけでなく、これまでに経験してきたことやモチベーション等にも違いがあります。

👉【例えば、学年別の学生の特徴には次のようなものがあります】

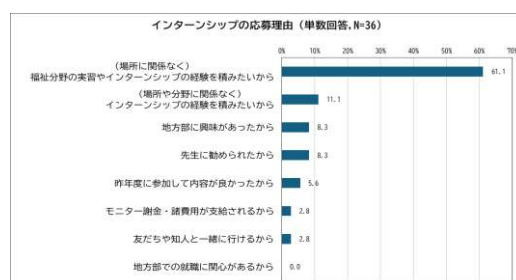
学年	特徴
1 年生	社会福祉を学び始めた段階で、専門的な学習はあまり進んでいません。初めてのインターンシップで緊張している場合も多いです。実践現場で何が行われているのか、支援対象や支援者の業務について具体的なイメージはほとんどない場合が想定されます。
2 年生	社会福祉についての専門的な学びが始まっている段階ですが、まだ部分的な知識の理解にとどまっていることが多いです。現場体験を通じて、支援の実際について学びたいと考えています。利用者等との関わり方や支援方法について関心があります。
3 年生	社会福祉に関する専門的な学びが一定程度進んでおり、専門的な知識・技術に基づく個別支援や地域支援ならびに支援計画等についても学んでいます。現場経験を積みながら、専門職としてのキャリアを意識しているため、具体的な支援スキル等の専門性の理解・習得を目指しています。

※途中で転学部・転学科をして社会福祉を学んでいる学生もいるため、学年のみならず学生の状況に応じて個別的に考えてください。

Q2 地方部のインターンシップ等に来る学生はどんな人？

- ④ 場所（都会か地方か）を問わず経験を積みたいと考える学生が最も多いです。また、学校の授業で行う社会福祉士・精神保健福祉士の実習の前に、現場を一度体験してみたいと考える 1 年生や 2 年生も多く見られます。少数ではありますが、地方部に関心を持つ学生もいます。

👉（今般の調査結果をご参照ください）



3. 受け入れ期間を決める

Q1 学生を受け入れる期間はどれくらい？

- ④ インターンシップ等の期間は、大きく 1 週間、2 週間、1 か月の区分で考えることができます。学生の学年や参加の目的に加え、受け入れ側（地域・組織等）の条件等を総合的に考慮した上で、受け入れ期間を設定します。

☞（例えば、こんな考えが可能です）

受け入れ期間	学生の特徴（例）
1 週間程度 (1 日 6～7 時間)	- 知らない地域や社会福祉の現場が初めての 1 年生や、地方での経験が少なく短期間での基礎的な体験したい学生 - 友人と一緒に参加でき、滞在先等についても安心できる
2 週間程度 (1 日 6～7 時間)	- 地方部でのインターンシップの経験があり、地方部の課題や住民との交流を通して学びを深めたい学生(主に 2 年生) - 友人と一緒に参加でき、滞在先等についても安心できる
1 か月程度 (1 日 7.5 時間程度)	- 地方部で一定期間のインターンシップを（複数回）経験済みで、地方部での社会福祉の支援や課題に興味・関心がある学生（主に 3 年生・4 年生） - 信頼できる受け入れ担当者（実習指導者）がいることや、友達同士でインターンに参加でき、滞在先等についても確安心できる - 利用者・家族・地域住民・関係する施設・機関の職員等との関係を築きながら、より実践的な支援スキルや専門性を身につけたい学生

第3部 受け入れプログラムの作成方法

1. 自分たちの業務内容を整理する

まず、自分（と所属組織）は日ごろどんな業務・事業をしているか、連携している施設・機関等について、できるだけ具体的に書き出しましょう。また、自分だけでなく、同僚や上司・部下など組織内のスタッフにも参加・協力をお願いしましょう。

☞（例えば、このように列挙しましょう）

業務分類	業務内容	連携先
相談業務	地域住民生活全般に関する相談対応	町村役場、包括
	高齢者・介護者の相談支援	包括、介護事業所
	障害者等への就労支援相談	ハローワーク、障害者支援施設
計画作成	ケアプラン・支援計画の作成支援	ケアマネジャー、医療機関
	地域福祉計画や個別支援計画の策定	町村役場、地域住民、関係機関
支援業務	生活支援サービスの実施・調整（配食・移送等）	ボランティア団体、NPO 法人
	就労支援プログラムの運営	ハローワーク、企業
	虐待防止に向けた支援や訪問活動	包括、警察、児童相談所
調整業務	関係機関とのケース共有・支援調整	医療機関、教育機関、包括
	緊急時対応の体制づくりと情報共有	警察、消防、町村防災課
教育・啓発	福祉教育（学校出前授業等）の企画・実施	学校、地域団体
	住民向けセミナー・学習会の開催	住民自治会、包括
地域支援活動	高齢者等の見守り活動の調整・実施	民生委員、包括
	サロン活動や居場所づくりの支援	住民ボランティア、社会福祉協議会
権利擁護支援	虐待の早期発見・通報と対応	包括、児童相談所、警察、保健所
	成年後見制度の申立てや利用支援	福祉担当課、権利擁護センター
災害対応	要配慮者の避難支援計画の整備と確認	民生委員、町村防災担当課、消防、保健師
	災害時の安否確認・避難所支援	自治体職員、自衛隊、包括

2. プログラムの構成要素を確認する

(1) 大枠の項目

インターンシップ等のプログラムを作成する際には、全体の流れや主要な要素を確認し、しっかり準備しておくことが大切です。目的や振り返り、集合時間や休日など、プログラムの基礎を固めるために、例えば、下記の8つの項目を検討しましょう。

①コンテンツ毎の目標

- ・ 学生がインターンシップ等を通して何を学ぶべきか、どのような価値・知識・技術を得たり何を体験することが期待されているのか明確に伝えましょう。

📖 (参考例)

学年	コンテンツ	考えられる目標
1年生	地域包括支援センターでの電話相談補助	電話相談の流れを理解し、適切な応答方法を学ぶ
	地域のお祭りやイベントの福祉ブース運営補助	地域住民と交流し、福祉活動のPR方法を学ぶ
2年生	高齢者宅への訪問調査同行	高齢者の生活実態を理解し、課題の把握方法を学ぶ
	障害者就労支援施設での日中活動の見学	障害者の生活や支援活動の現状を知り、支援の必要性を理解する
	地域の農家を訪問して生活課題のヒアリング	地域住民の生活環境と課題を具体的に把握する
3～4年生	福祉計画の進捗報告会の資料作成・発表補助	福祉計画の作成・進捗管理の重要性と実践方法を体験する
	地域住民の防災訓練での支援体制チェック	災害時の支援体制と地域住民の安全確保の流れを理解する
	児童相談所とのケースカンファレンスへの参加	他機関との連携の重要性を知り、意見交換の方法を学ぶ
	福祉教育セミナーの企画・運営補助	福祉教育の計画と実施の実務を学び、啓発活動のポイントを理解する

②学習内容の進行とスケジュール

- ・ 集合・終了時間やメニューの目的や活動内容を明確し、日々の活動とタイムラインの計画を記載しましょう。

③集合場所と時間

- ・ 毎日の集合場所と時間を統一するか、活動内容に応じて調整するかを決めたうえ、学生に明確に通知しましょう。

④休憩時間と休日

- ・ 適切な休憩・昼食時間を設けましょう。インターンシップ等が長期の場合、休日の設定も重要です（1 か月の場合は、最低でも 6～8 日間は必要）。

⑤振り返りの時間

- ・ 学生が自己の成長を意識できるようにサポートし、毎日、短時間でも振り返りの時間を設けましょう。
- ・ 最終日には全体の振り返りを行いましょう。

（振り返りの実施例）

1. 写真を使った活動の振り返り（15 分）

- ・ 指導者が当日撮影した写真をプロジェクターやタブレットで共有。
- ・ 学生が写真を見ながら、自分の行動や印象に残った出来事を振り返る。
 - ◎ 指導者が「この場面では何を考えていましたか？」「この活動で気づいたことは？」と質問を投げかける。
- ・ 学生全員がリラックスして当日を振り返るきっかけを提供。

2. 学生への質問と共有（25 分）

- ・ 学生が順番に質問に答え、他の学生は聞き役として参加し、最後に一言感想を述べることで、体験を言語化し次への意識につなげる。
- ・ 学生向けの質問例：
 - ①今日一番印象に残った活動は何でしたか？
 - ②自分が頑張ったと感じた瞬間は？
 - ③明日に向けて改善したいことは？

3. 指導者からのフィードバック（20 分）

- ・ 活動全体を指導者が簡潔に振り返る。
 - ◎ 今日の活動全体を振り返り、学生の良い点を具体的に指摘。
 - ◎ 改善すべきポイントをポジティブな表現で伝える。
 - ◎ 全体としての学びや次の日の目標を共有。
- ・ 体験の意味づけの促しを行う。
 - ◎ 「今日の体験から、福祉専門職として何を学んだか？」や「現場職員だったら、どう判断・行動したと思うか？」といった質問を投げかけ、学生に自身の体験を深く考えてもらう。

⑥具体的な活動内容と役割分担

- ・ インターンシップ等で行う活動内容を詳細に記し、学生が（部分的にでも）実施する内容を決定しましょう。

⑦事前準備と非常時の対応

- ・ 必要な持ち物や当日のコンテンツに応じた服装の指示を出しましょう。
- ・ 事前に勉強しておいたほうがよい内容を伝えましょう。
- ・ 学生の体調不良や災害発生時等の対応について受け入れ組織内で確認しておきましょう。

⑧代案も用意しておく

- ・ 天候不良等、当初のプログラムが実施できない場合の代案を（大まかな内容でもよいので）決めておきましょう。

(2) 1日の流れ（例）

9:00 - 10:30 高齢者とのふれあい活動

- ・ 活動場所：デイサービスセンター内
- ・ 主な担当者：Aさん（デイサービス職員）
- ・ 目標：高齢者と交流し、福祉の現場でのサポート方法やコミュニケーションスキルを学ぶ。
- ・ 内容：高齢者と一緒に体操やゲームを楽しむ時間。レクリエーションを通して高齢者のニーズを感じながら、積極的に交流する。
- ・ 学生の参加方法：高齢者と話したり、体操の手助けをしたりしながら、利用者が楽しい時間を過ごせるようサポートする。

10:30 - 12:00 地域体験（地元ガイドと一緒に町を散歩）

- ・ 活動場所：地元の観光スポットや歴史的な場所
- ・ 主な担当者：Bさん（地元ガイド）
- ・ 目標：地域の歴史や文化について学び、地方の魅力を感じる。
- ・ 内容：地元ガイドの案内で町を散策し、観光名所や歴史的なスポットを巡る。地元の文化や人々との触れ合いを通して、地域の特色を体感する。
- ・ 学生の参加方法：ガイドの話聞きながら、気になったことは積極的に質問し、自分なりの視点で地域の雰囲気を楽しむ。

12:00 - 13:00 昼食・休憩

13:30 - 15:00 子ども支援活動（保育園または児童館訪問）

- ・ 活動場所：保育園または児童館
- ・ 主な担当者：Cさん（保育士）
- ・ 目標：子どもと触れ合い、保育や教育の基本的なサポート方法を学ぶ。
- ・ 内容：子どもたちと遊んだり、学びの活動を一緒に行う時間。絵本の読み聞かせやお絵かき、簡単な運動遊びを通じて子どもと交流する。
- ・ 学生の参加方法：子どもたちと一緒に遊びや活動に参加し、サポートが必要な場面で手を貸す。子どもたちの興味に合わせて柔軟に対応する。

15:00 - 16:00 振り返りと解散

- ・ 活動場所：児童館または施設の休憩スペース
- ・ 主な担当者：Aさん（デイサービス職員）
- ・ 目標：1日の活動を振り返り、学んだことを整理し、次の目標を設定する。
- ・ 内容：活動を振り返り、学びや気づいた点を共有する。職員からのフィードバックを受け、次回に向けた改善点を確認。
- ・ 学生の参加方法：今日の体験を思い返し、学んだことや感想を発表する。職員や他の学生と意見を交換し、次回の目標を考える。

その他の留意点

- ・ 天候が悪い場合：散歩が難しい場合は、地元の文化や歴史を紹介する室内活動に変更。また、地域の観光スポットについての説明を映像や写真で見る代替体験を提供する。
- ・ 服装：動きやすい服装で、汚れても良いものを着用。散歩に適した靴や、子どもとの活動に必要なエプロンを用意する。

3. 連携先を検討する

受け入れ担当者（実習指導者）1人ですべて対応するのではなく、同僚・上等の組織内の関係者はもちろんのこと、関係する施設・機関へ協力を依頼することも大切にしましょう。インターンシップ等のプログラムを考える上で、協力の依頼先を検討するには、「1. まず、自分たちの業務内容を書きだそう」で整理した内容を踏まえ依頼するのが望ましいですが、それが難しい場合には下記の一覧表を参考にしましょう。

📄（協力依頼先の候補一覧）

分類	候補
高齢者支援関連	地域包括支援センター、訪問介護事業所、小規模多機能型居宅介護事業所デイサービスセンター、介護老人保健施設（老健）、特別養護老人ホーム（特養）、グループホーム、ショートステイ施設、在宅介護支援センター 等
障害者支援関連	障害福祉サービス事業所（生活介護）、地域の障害者就労支援拠点、障害者支援センター、相談支援事業所、障害者就労移行・継続支援事業所、自立訓練（生活訓練）施設、地域交流サロン 等
児童福祉関連	保育所・認定こども園、地域子育て支援センター、学童保育所、児童館、児童養護施設、母子生活支援施設、ファミリーサポートセンター 等
地域コミュニティ関連	公民館、自治会・町内会、地域福祉協議会、NPO 法人・ボランティア団体、コミュニティサポートセンター、市民活動支援センター、多文化共生センター、地域安全センター 等
医療関連	地域診療所、訪問看護ステーション、歯科クリニック、地域密着型病院、認知症サポート拠点、薬局・ドラッグストア（健康相談対応）、地域の保健センターリハビリテーションセンター 等
就労支援関連	地域の産業振興センター、商工会・商工会議所、ハローワーク（公共職業安定所）、障害者就労支援センター、地域の特産品加工場、農業研修センター、職業訓練施設 等
教育関連	小中高学校、町営の図書館・図書室、社会教育センター、学習支援教室、子ども食堂、教育支援センター 等
主要産業関連	農協（JA）・地域農業組合、漁協・地域漁業組合、観光協会、林業協同組合、地域の製造業関連施設（食品加工場や地場産品の工場）、観光牧場・体験農場、地域特産品販売所 等
その他関連施設	消防団・消防署（災害時の福祉支援）、地域おこし協力隊拠点、防災センター、スポーツセンター・総合体育館（障害者スポーツなどの福祉関連イベント）、地域の商店街振興組合 等

4. まちの特徴を活かした体験を組み込む

学生がまちの良さや魅力を実感しながら、まちでの生活や福祉活動を身近に感じ積極的にインターンシップ等に参加できるよう、まちならではの体験もプログラムに組み込むことが効果的です。地域住民との交流やまちの資源を活かした活動を通じて、学生にとっては地域での実践を試してみるチャンスにもなります。こうした経験は、まちへの興味や愛着を深めるきっかけにもつながります。

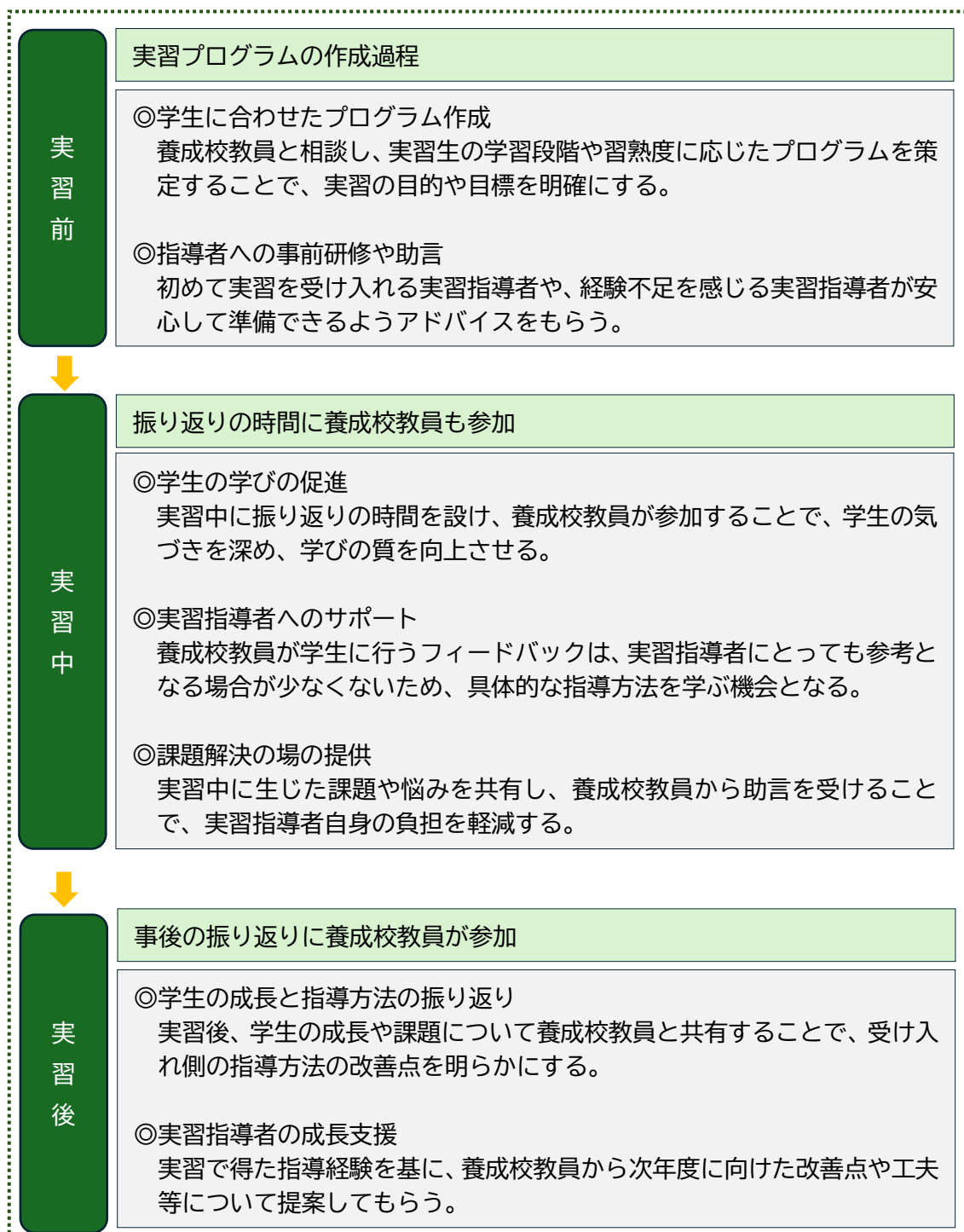
📖（地域体験コンテンツの参考例）

No.	項目の名前	具体例
1	地域住民との共同作業（農作業や雪かき）	地域の農作業を手伝ったり、冬季には雪かきを行う
2	地域の小規模商店や直売所での販売補助	地元の野菜や特産品を販売する直売所で接客を体験
3	集会所での地域住民との交流イベント参加	高齢者のサークル活動に参加し、一緒にレクリエーションを行う
4	田舎特有の交通手段体験（スクールバスや地域バス）	スクールバスのルートに同乗して地域の生活事情を学ぶ
5	自然観察ツアーやトレッキング体験	地元の自然公園でのハイキングや野鳥観察を体験
6	地域の散歩や名所案内ツアー	地域の名所を巡る散策や観光ガイドによる説明を聞く
7	地域の文化や歴史を学ぶワークショップ	地元の歴史や伝統文化をテーマにしたワークショップに参加

5. 養成校教員と連携する

学生を受け入れる際、学生だけでなく、受け入れ先の担当者（実習指導者）も経験不足や指導方法に悩むことが考えられます。そのため、養成校教員から助言を得ることは、学生への適切な対応だけでなく、受け入れ担当者（実習指導者）自身の不安軽減にも繋がります。

以下の3つの場面での連携が特に効果的です。



第4部 インターンシップ受け入れプログラムの具体例

1. 行政主導型



【実施概要】

対象学生	1～3年生	受け入れ期間	4日間
受け入れ人数	8名	受け入れ先	遠別町役場
受け入れ担当者	主担当1名（保健師）、補助1名（保健師）		
宿泊先	町内ホテル（4名）、近隣町村のホテル（4名）		
特徴	- 受け入れ学年の制限にとらわれることなく、非社会福祉士の指導者でも指導可能で、地域の暮らしに重点を置いた内容 - プログラムの作成にあたっては、学生とのコミュニケーションを円滑にするため、言語化しやすいツールを活用		

【プログラムの内容】

Day①

時間	内容
午前	移動…〔バス 札幌市 8:00 発→遠別町 12:04 着〕 昼食…各自（コンビニで購入し役場で食べてもよい、道の駅やレストランに食べに行っても良い）
13:15	遠別町役場来庁
13:30	挨拶回り ①オリエンテーション・包括支援系の業務内容；②福祉課長のお話； ③訪問のインタビュー内容話し合い
15:00	（公用車）④診療所見学、他町内のドライブ
17:30	（徒歩）夕食…役場職員等と懇談
19:20	宿泊先への移動【町内グループ（徒歩）、町外グループ（バス）】 移動…〔バス 遠別町 19:34 発→近隣町村 19:56 着〕

Day②

時間	内容
	【集合時間と場所】 9:00 に役場 移動…〔バス 近隣町村 8:20 発→遠別町 8:48 着〕
9:00	⑤福祉系の業務内容；⑥保健系の業務内容の紹介
10:20	(徒歩) ⑦高齢者訪問体験
11:30	昼食…各自
12:40	(徒歩) ⑧「認知症予防セミナー」(認知症予防教室) 運営補助
15:30	⑨ミニカンファレンス (今日の振り返り)
16:00	宿泊先への移動【町内グループ (徒歩)、町外グループ (沿岸バス)】 移動…〔バス 遠別 16:16 発→近隣町村 16:41 着〕 夕食…各自

Day③

時間	内容
	【集合時間と場所】 9:00 に役場 移動…〔バス 近隣町村 8:20 発→遠別町 8:48 着〕
9:00	(公用車) ⑩ 1次産業訪問 (漁業)
12:00	昼食…各自
13:00	(徒歩) ⑪人生会議 (ACP) 連携 (多職種連携)・消防署訪問
14:00	(公用車) ⑫居宅介護支援事業所ケアマネ訪問
15:00	⑬ミニカンファレンス (今日の振り返り)
16:00	宿泊先への移動【町内グループ (徒歩)、町外グループ (沿岸バス)】 移動…〔バス 遠別町 16:16 発→近隣町村 16:41 着〕 夕食…各自

Day④

時間	内容
	【集合時間と場所】 9:00 に役場 移動：〔バス 近隣町村 8:20 発→遠別町 8:48 着〕 *荷物持参
9:00	⑭保健指導系の業務内容
9:30	⑮町長へのインタビュー
10:30	⑯インターンシップのまとめ・学んだこと
11:00	挨拶周り・プログラム終了
11:10	移動…〔バス 遠別町 11:36 発→札幌市 15:45 着〕 *コンビニで昼食購入

2. 施設主導型



【実施概要】

対象学生	2年生	受け入れ期間	5日間
受け入れ人数	5名	受け入れ先	夕張市・福祉施設
受け入れ担当者	1名（社会福祉士資格なし）		
宿泊先	市内ホテル		
特徴	養成校の指導教員と連携し、非社会福祉士の指導者でも指導可能で、地域の暮らしに重点を置いた内容		

【プログラムの内容】

Day①

時間	内容
10:47	バスターミナル到着、歩いて福祉施設へ向かう ◎学びのポイント:地域を歩くことで、都会との違いや田舎の交通機関の実情を知る
11:15	福祉施設到着、自己紹介・予定等の確認 ◎学びのポイント:自己紹介での自己表現、インターンシップの目的を言語化して伝える
11:45	昼食
12:45	夕張市役所へ移動（車で送迎）
13:00	夕張市職員との交流会 「3年後、財政再生団体終了後の夕張の明るい未来について」 ◎学びのポイント:財政破綻が終わる3年後を見据えて夕張の明るいビジョンを学ぶ
14:00	夕張市農協へ移動（車で送迎）
14:30	夕張市農協「夕張メロンについて」 ◎学びのポイント:夕張のNo.1名物「夕張メロン」の歴史と苦労を学ぶ
15:30	地方創生関連の一般社団法人へ移動（車で送迎）
16:00	地方創生関連の一般社団法人「夕張へ移住・企業」 ◎学びのポイント:大家族で札幌から夕張に移住し、企業した××さんにその思いと夕張での可能性を学ぶ
17:30	今日の振り返り
18:00	宿泊先へ移動

Day②

時間	内容
9:00	オリエンテーション ◎学びのポイント：受け入れ福祉施設の理念を学ぶ
9:40	【グループ①】就労Bでの体験（配達の準備等） ◎学びのポイント：障害者の就労支援と地域の高齢者への支援の関わりを知る
	【グループ②】就労Bでの体験（カフェの見学と体験） ◎学びのポイント：障害者の就労支援で行う地域の食堂を知る
	【グループ③】児童発達支援での体験（児童への食事介助等） ◎学びのポイント：保育園での受け入れ困難ケースを知る
	【グループ④】高齢者施設の利用者との交流 ◎学びのポイント：高齢者の地域での生活事情を知る
14:00	障がい者支援施設の見学 ◎学びのポイント：就労Aの一般就労に近い働き方を知る
15:00	障害者、高齢者、子どもとの交流会 ◎学びのポイント：障害者、高齢者、子どもとの交流を体験する
17:00	今日の振り返り
18:00	夕食

Day③

時間	内容
8:20	徒歩でバス停へ→バス移動（8:41××発→9:16××着）→徒歩で猫カフェへ ◎学びのポイント：地方の交通機関の実情を知る
9:20	猫カフェ「猫と高齢者とケアマネ」 ◎学びのポイント：在宅高齢者の介護・ペットの問題を考える
12:00	併設のカフェで昼食
13:00	診療所へ移動（車で送迎）
13:30	診療所「介護と民謡文化の人」 ◎学びのポイント：自然なデイサービスの雰囲気や夕張市の「お風呂」に困る住民・高齢者の実情を知る
14:45	保育園へ移動（車で送迎）
15:00	保育園「夕張の里山保育」 ◎学びのポイント：里山保育への思いを知る
16:10	今日の振り返り（車で福祉施設へ移動）
17:50	バスで宿泊先へ移動（17:50××発→17:58××着）

Day④

時間	内容
8:40	徒歩でガイドさん宅へ移動
9:00	一日夕張ガイド「夕張の歴史と現状」 ◎学びのポイント:夕張の炭鉱時代から財政破綻、現在に至るまでのことを学ぶ
17:00	ガイド終了
18:00	ガイドさんと夕食会

Day⑤

時間	内容
9:00	宿泊先出発
9:30	展望公園散策
11:00	山小屋「夕張岳のお話し」と昼食 ◎学びのポイント:夕張岳を守るための取組を知る
13:00	展望公園から福祉施設へ移動
14:00	全体の振り返り ◎学びのポイント: インターンシップ前後の夕張への認識の変化を共有
15:30	バス停へ移動（終了）

3. 町同士連携型



【実施概要】

対象学生	2 年生	受け入れ期間	10 日間
受け入れ人数	4 名	受け入れ先	京極町社協、喜茂別町包括
受け入れ 指導者	京極町 2 名（2 名とも社会福祉士資格あり） 喜茂別町 3 名（町内社会福祉士資格あり 1 名、町内社会福祉士資格なし 1 名、町外社会福祉士資格あり 1 名）		
宿泊先	喜茂別町のトレーラーハウス（自炊生活）		
特徴	・ 近隣の 2 町村が連携し、学生を受け入れた。 ・ 受け入れた学生は過去に喜茂別町で 5 日間のインターン経験がある。 ・ 指導教員の助言を受けてプログラムを作成し、インターンシップ中には指導教員が現地指導を行った。		

【プログラムの内容】

Day①

AM	札幌から宿泊先への移動（バス 11:30 札幌市発→13:16 喜茂別町着）
14:30	◎目標：町の生活をイメージしてもらうこと ◎内容：京極町の紹介、オリエンテーション、町の散策 【w/指導者京極町】 ◎移動：指導者による送迎
16:30	◎内容：宿泊先への移動 ◎移動：バス（16:43 京極町発→16:57 喜茂別町着）

Day②

9:05	◎目標：利用者の状態や思いを知ってもらうこと ◎内容：担当人物の紹介と ICF で自分をアセスメントする 【w/指導者喜茂別町】 ◎集合：9:05 に喜茂別町包括 ◎移動：喜茂別町営バス（8:59××発→9:04××着）
11:45	昼休憩と移動
13:30	◎目標：地域の居場所や支えについて考えてもらうこと ◎内容：京極町住民主体の通いの場の見学 【w/指導者京極町】 ◎集合：13:15 に京極町社協 ◎移動：バス（12:07 喜茂別町発→12:22 京極町着）
16:00	今日の振り返り 【w/指導者京極町】
16:30	宿泊先への移動 ◎移動：バス（16:43 京極町発→16:57 喜茂別町着）

Day③

10:00	◎目標：地域の居場所や支えについて考えてもらうこと ◎内容：京極町共生型地域福祉拠点で住民さんと交流 【w/指導者京極町】 ◎集合：9:57 にバス停 ◎移動：バス（9:42 喜茂別町発→9:57 京極町着）
12:00	昼休憩
13:30	◎目標：地域住民とのコミュニケーションのやり方について考えてもらうこと ◎内容：2 チームに分けて高齢者への訪問 【w/指導者京極町及び喜茂別町】 ◎集合：13:30 に京極町社協、喜茂別町包括に集合 ◎移動：指導者による送迎
16:00	今日の振り返り 【w/指導者喜茂別町】 ◎集合：16:00 に喜茂別町包括
17:00	宿泊先への移動（徒歩）

Day④

AM	◎目標：地域住民とのコミュニケーションのやり方について考えてもらうこと ◎内容：2 チームに分けて高齢者への訪問 【w/指導者京極町及び喜茂別町】 ◎集合：京極町は 9:57 にバス停、喜茂別町は 9:05 に包括 ◎移動： 京極町はバス（9:42 喜茂別町発→9:57 京極町着） 喜茂別町は町営バス（8:59××発→9:04××着）
12:00	昼休憩と移動（指導者による送迎）
13:00	◎目標：障がい者への援助支援について考えてもらうこと ◎内容：障害者支援施設体験&見学 【w/指導者喜茂別町】 ◎集合：13:00 にカフェ ◎移動：指導者による送迎
16:00	今日の振り返り 【w/指導者喜茂別町】
17:00	宿泊先への移動（徒歩）

Day⑤

10:00	◎目標：高齢者支援や特養の在り方について考えてもらうこと ◎内容：京極町特養の見学 【w/指導者京極町】 ◎集合：9:50 にバス停 ◎移動：バス（9:42 喜茂別町発→9:50 京極町着）
12:00	昼休憩と移動（指導者による送迎）
13:30	町内散策と今週の振り返り（感想+質疑応答） 【w/指導者喜茂別町】
18:00	歓迎会

休日 2 日間

Day⑥

AM	◎目標：地域住民とのコミュニケーションのやり方について考えてもらうこと ◎内容：2チームに分けて高齢者への訪問 【w/指導者京極町及び喜茂別町】 ◎集合：京極町は9:57にバス停、喜茂別町は9:05に包括 ◎移動： 京極町はバス（9:42 喜茂別町発→9:57 京極町着） 喜茂別町は徒歩
12:00	昼休憩と移動（指導者による送迎）
13:30	◎目標：多職種連携の在り方について考えてもらうこと ◎内容：昨年度のケースに関する学生からの意見収集 【w/指導者喜茂別町】
16:00	今日の振り返り（感想＋質疑応答）【w/指導者喜茂別町】
17:00	宿泊先への移動（徒歩）

Day⑦

9:00	◎目標：情報整理や企画提案について考えてもらうこと ◎内容：事前準備第1回 【指導者なし】 会場の下見、参加者名簿の作成、参加者のグループの分け、必要な備品種類・量や購入場所の確認、当日運営や進行のシナリオ作り、会場のレイアウト作りをやる。案を作成後、LINEで講師に提案して最終確認、講師への配布資料の確認 ◎集合：9:00に喜茂別町××センター ◎移動：徒歩
12:00	昼休憩
13:00	◎目標：アセスメントの結果から支援計画の作成への流れについて考えてもらうこと ◎内容：お互いの進捗確認、移動支援の実施方法の確認 【w/指導者喜茂別町】
16:00	今日の振り返り（感想＋質疑応答）【w/指導者喜茂別町】

Day⑧

9:05	◎目標：コーディネーションについて考えてもらうこと ◎内容：事前準備第2回 【w/指導者喜茂別町】 関係者への時間の連絡、高齢者に時間の通知等 ◎集合：9:05に喜茂別町包括
12:00	昼休憩
13:00	◎目標：地方で暮らしている高齢者の買い物という課題について考えてもらうこと ◎内容：イベント当日用食材・備品の買い出し 【指導者なし】
16:00	◎内容：今日の振り返り（感想＋質疑応答）【w/指導者喜茂別町】 ◎集合：16:00に喜茂別町××センター

Day⑨

9:30	◎目標：計画の実行について考えてもらうこと ◎内容：会場の設置【指導者なし】
11:00	昼休み
12:20	◎目標：高齢者への援助について考えてもらうこと ◎内容：イベント開催の最終確認【指導者なし】
13:30	◎目標：計画の実行について考えてもらうこと ◎内容：イベントの開催【w/指導者喜茂別町と京極町】
15:30	会場の片づけ
16:30	◎目標：社会福祉士としての役割について考えてもらうこと ◎内容：全体の振り返り【w/指導者喜茂別町、京極町、指導教員】 ◎集合：16:30 に喜茂別町××センター
18:30	宿泊先への移動（徒歩）

Day⑩

9:30	宿舎の清掃等
11:30	◎内容：送別ランチ会 ◎集合：11:30 に飲食店 ◎移動：指導者による送迎
13:00	喜茂別の宿泊先→札幌へ移動（13:51 喜茂別町発～15:40 札幌市着）

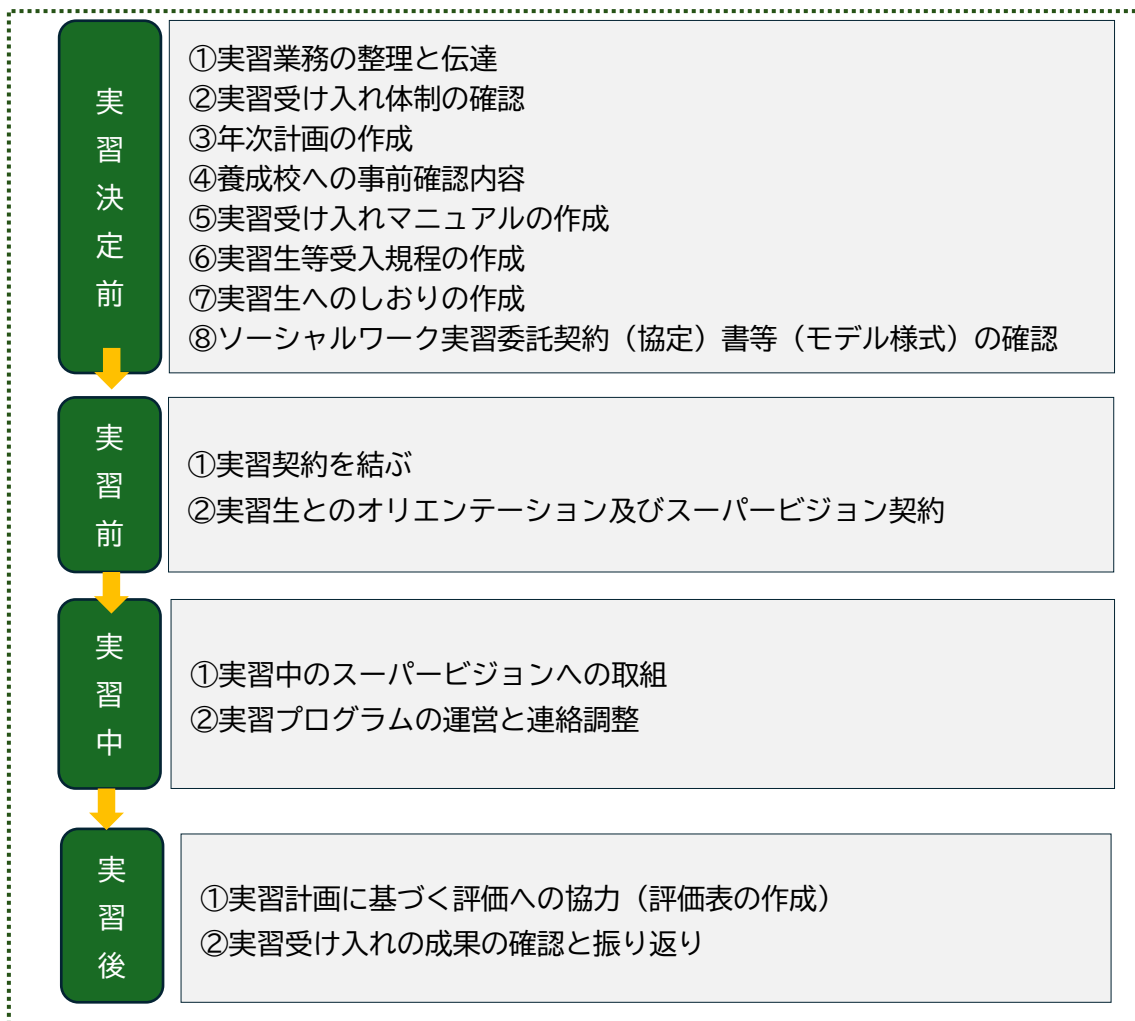
<参考> 国家資格対応のソーシャルワーク実習の概要

1. 実習施設・機関に必要な具体的準備・対応

【前提】

- ・ 実習施設・機関内で完結するものではありません（外部の施設・機関との連携が重要）。
- ・ 実習指導者が1人で取り組むものではありません（組織として受け入れることが重要）。
- ・ 実習に関連する施設・機関、特に養成校の実習担当教員や実習生も、それぞれの立場で実習マネジメントに取り組めます。

【流れ】



2. 実習指導者の要件及び役割

(1) 実習指導者の必須条件

実習指導者には次の条件が求められています。

実習指導者は、社会福祉士の資格を取得した後、相談援助の業務に3年以上従事した経験を有する者であって、科目省令第4条第7号に規定する講習会（以下「社会福祉士実習指導者講習会」という。）の課程を修了したものであること。

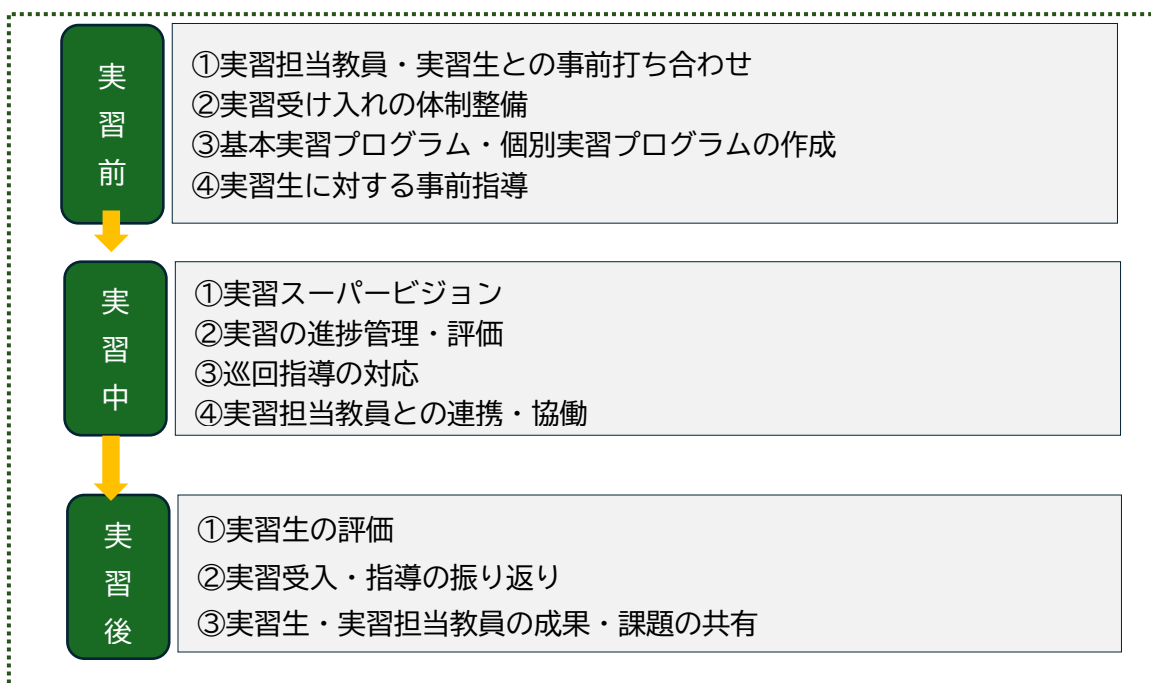
※出典：「大学等において開講する社会福祉に関する科目の確認に係る指針について」（元文科高第1122号社援発0306第23号令和2年3月6日）

📖（実習指導者講習会とは？）

実習指導者講習会は、「実習指導概論」（講義2時間）、「実習マネジメント論」（講義2時間）、「実習プログラミング論」（講義3時間）、「実習スーパービジョン論」（講義2時間、演習5時間）の計14時間

また、一つの実習施設・機関におけるソーシャルワーク実習の実習生数は、同一期間において実習者1名あたり5名までとなっています。

(2) 実習指導者の役割



3. ソーシャルワーク実習の「ねらい」と「教育に含むべき事項」

厚生労働省では、社会福祉士の養成課程におけるソーシャルワーク実習について、「240 時間、2 か所以上の実習施設・機関で行い、その 1 か所の実習施設・機関で 180 時間以上の実習（一部例外があり）」を行うよう定めています。

また、厚生労働省からソーシャルワーク実習の「ねらい」と「教育に含むべき事項」が示されているため、社会福祉士国家資格に対応したソーシャルワーク実習のプログラム作成にあたっては、これらの内容を踏まえる必要があります。

（ねらい）

- ❶ ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。
- ❷ 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。
- ❸ 生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。
- ❹ 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。
- ❺ 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

（教育に含むべき事項）

- ❶ 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成
- ❷ 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成
- ❸ 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価
- ❹ 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価
- ❺ 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解
- ❻ 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ
- ❼ 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解
- ❽ 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む）

⑨社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解

⑩ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解

アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション

◆ おわりに ◆

学生の受け入れを検討中で「学生を受け入れたいがどこに相談したらよいかわからない」、「養成校教員に助言をお願いしたいがどうしたらよいかわからない」、あるいは「そもそも何から準備を始めればよいかわからない」といった疑問など、道内地方部における大学生のインターンシップ等の受け入れに関するご相談がございましたら、どうぞお気軽に下記の事務局までお問い合わせください。

事務局では、学生受け入れに必要な準備の流れや、養成校との連携方法、具体的な事例についてもご案内いたします。初めての方でも安心してご相談いただける体制を整えておりますので、ぜひご連絡ください。

【問合せ先窓口】

株式会社北海道二十一世紀総合研究所

北海道内地方部の自治体における福祉・介護人材確保のための調査研究事業事務局

担当：劉（りゅう）・廣瀬

TEL：011-231-3053（平日 9:00～17:00）

E-mail：liu@htri.co.jp